

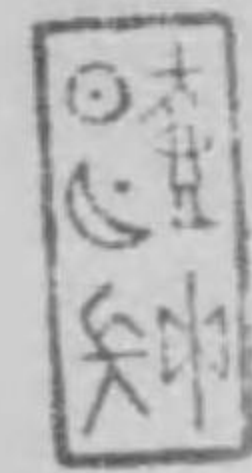
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 8 9 0 1 2 3 4 5

412-3



大典紀念寫真帖

大正
4. 12. 29
内



福

以

書

卷

沈嘉禾題



目次

— □ 緒 —

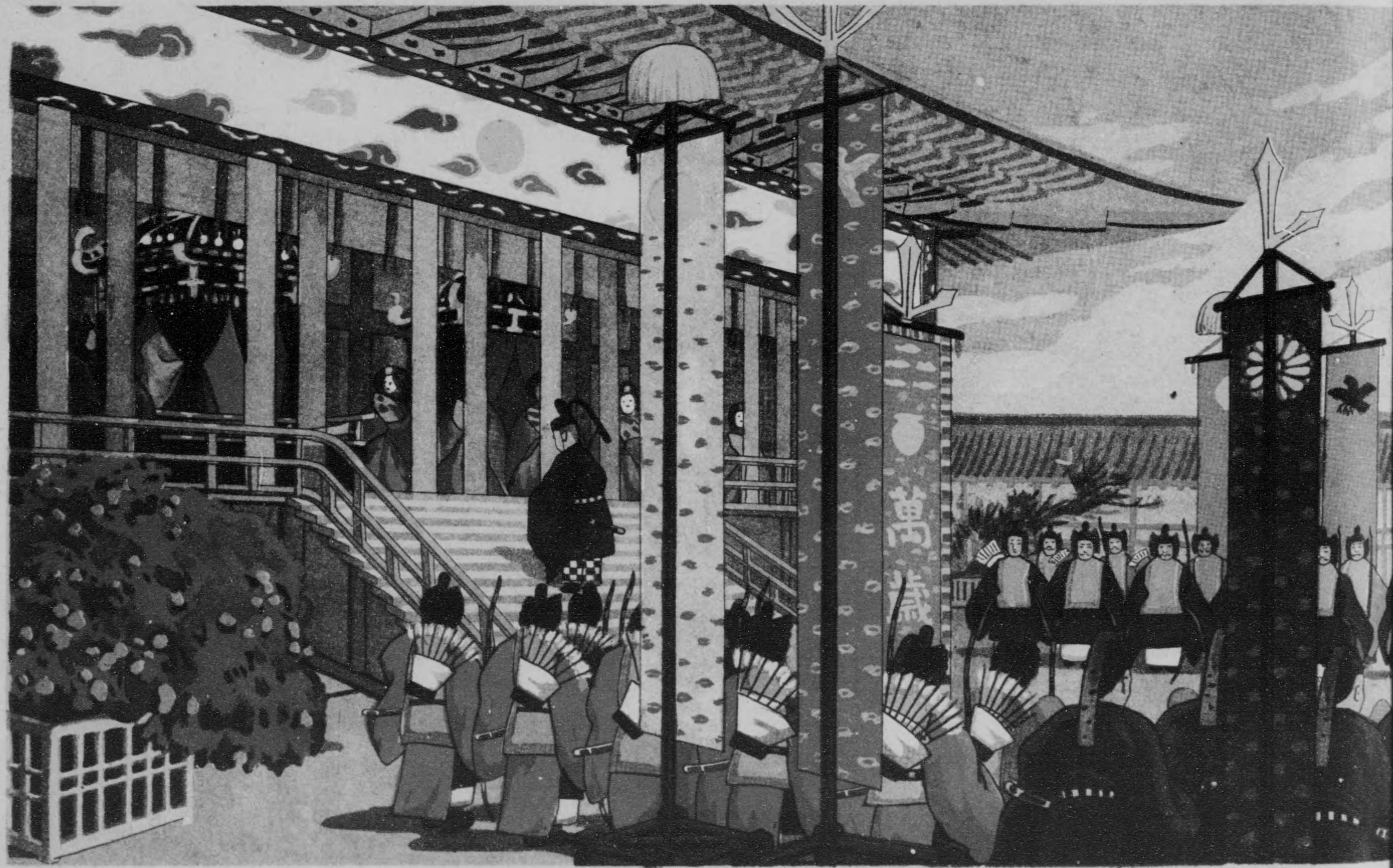
大嘗祭奉幣使平安神宮に入る……………	十四
大饗宴場と御車寄……………	十五
舞樂殿と五節舞姫……………	十六
大饗宴場の五節舞樂……………	十七
微古館下鹵簿通御……………	十八
御車上の皇太子殿下と二皇子……………	十九
高御座、御椅子、鳳輦……………	二十
大禮使總裁伏見宮殿下と大禮使長官鷹司公……………	二十一
大禮使の任命……………	二十二
西都の諸殿……………	二十三
御即位の御調度品……………	二十四
主基齋田……………	二十五
悠紀齋田……………	二十六
悠紀齋田供納米の運搬……………	二十七
高齢者の悠紀齋田拜観……………	二十八
京都の聖駕奉迎……………	二十九
宮城前の萬歳奉唱……………	三十
京都時代祭行列……………	三十一
東京の大典奉祝……………	三十二
西都の粧……………	三十三
聖駕境町御門を出てさせ給ふ……………	三十四
御即位大禮記……………	一―六

紫宸殿御即位式……………(石版極彩色)……………	一枚
大嘗祭の儀……………(石版極彩色)……………	一枚
最近の陛下御尊影……………(コロタイプ寫眞)……………	一枚

一	陛下の御尊影……………
二	皇太子殿下と二皇子……………
三	京都御所鳥瞰圖……………
四	鳳輦の東京御發軔……………
五	鹵簿鳥丸通り通御……………
六	御羽車鳥丸通り通御……………
七	鳳輦御苑内通御……………
八	承明門を隔て、紫宸殿を拜す……………
九	承明門より斜に紫宸殿を拜す……………
十	紫宸殿の正面……………
十一	月華門より日華門を望む……………
十二	紫宸殿の内面……………
十三	大嘗宮……………



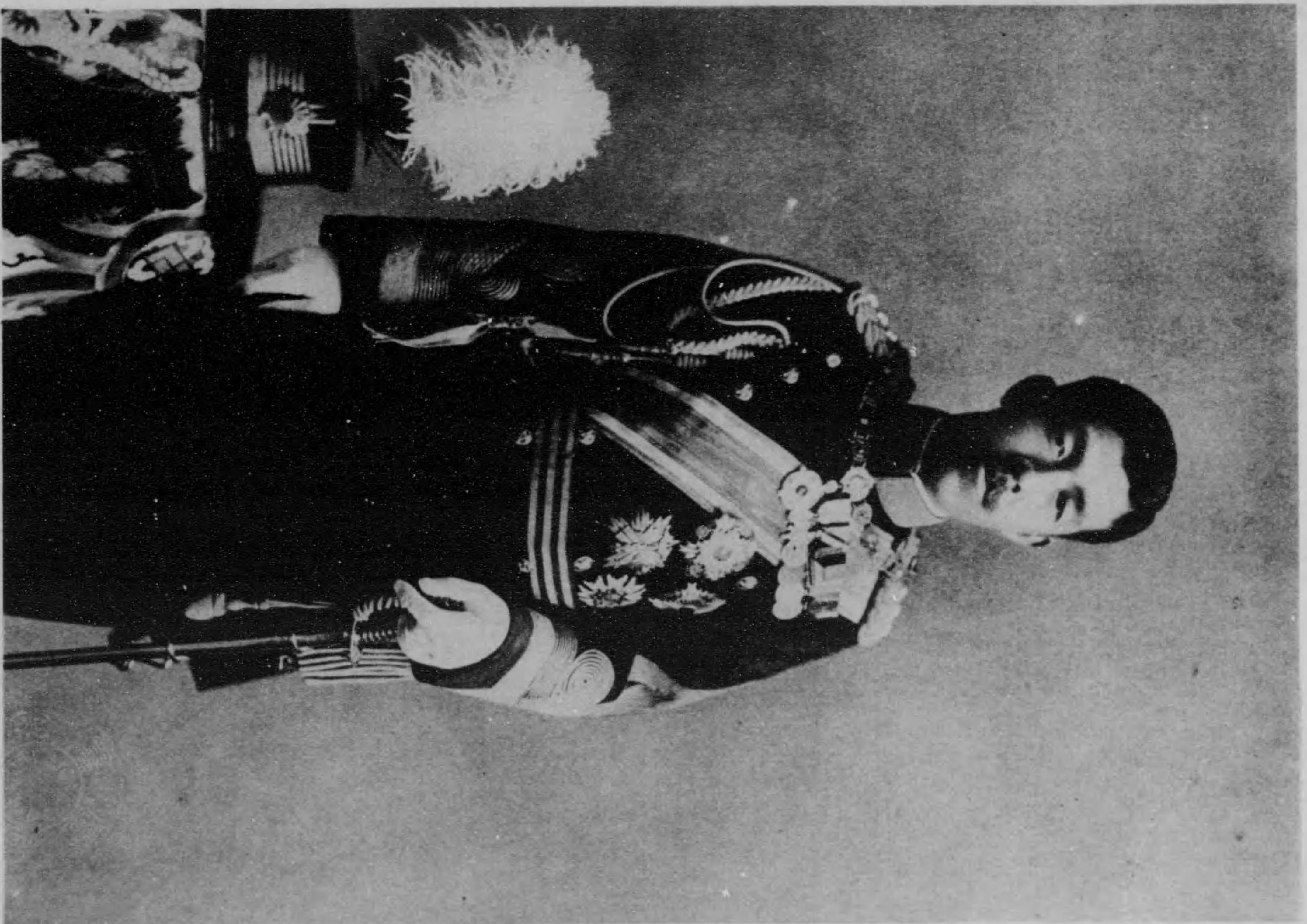
紫宸殿御即位式



大嘗祭



影 尊 御 下 陸 の 近 最





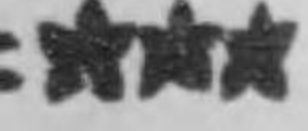
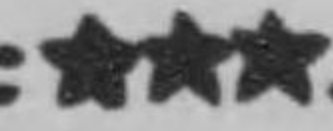
影 尊 御 の 下 陸 兩



下陸后皇の裝正御



下陸皇天の帶束御

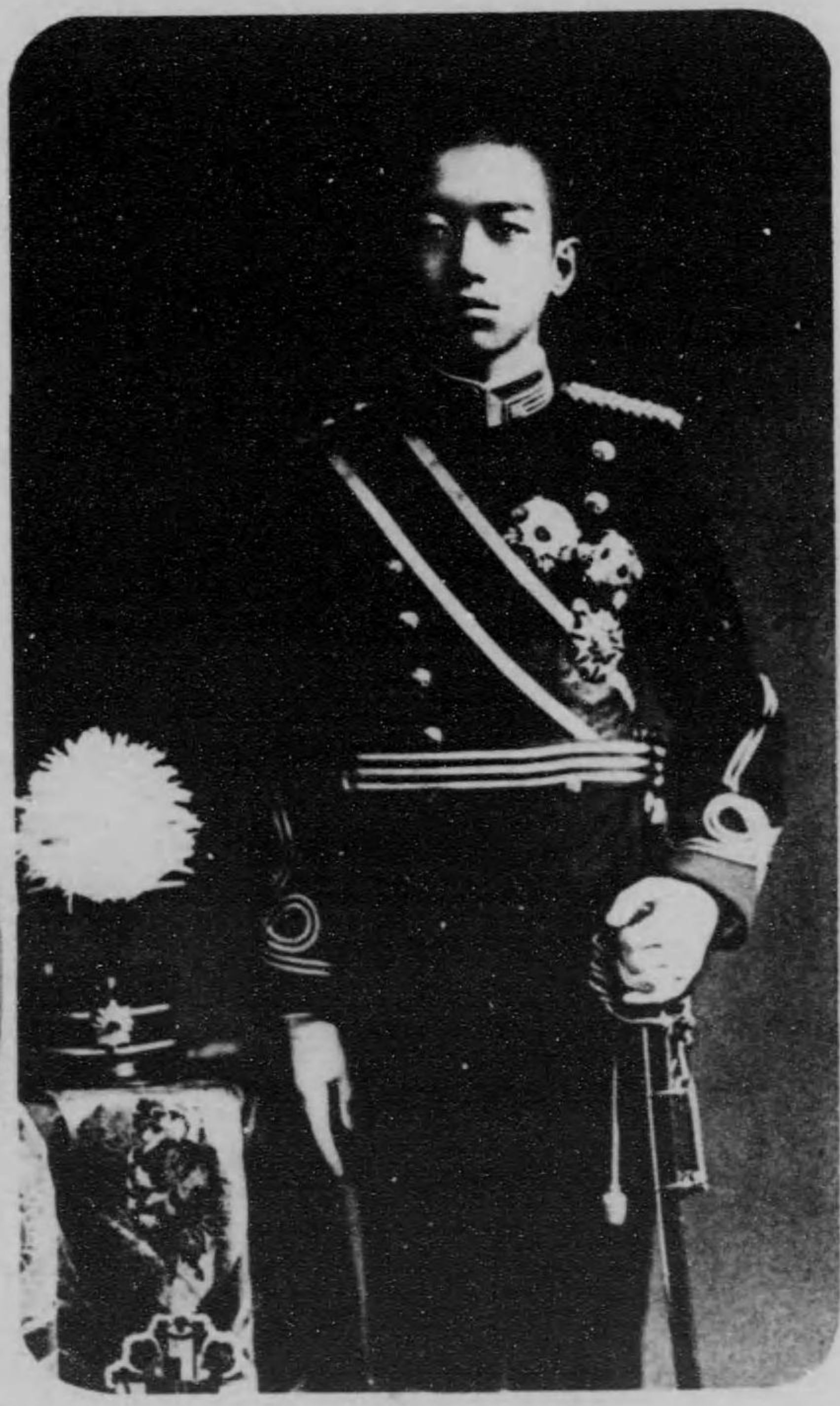




皇太子殿下と二皇子



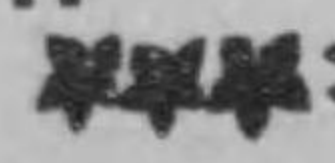
三皇子
高松宮仁親王殿下



皇太子殿下

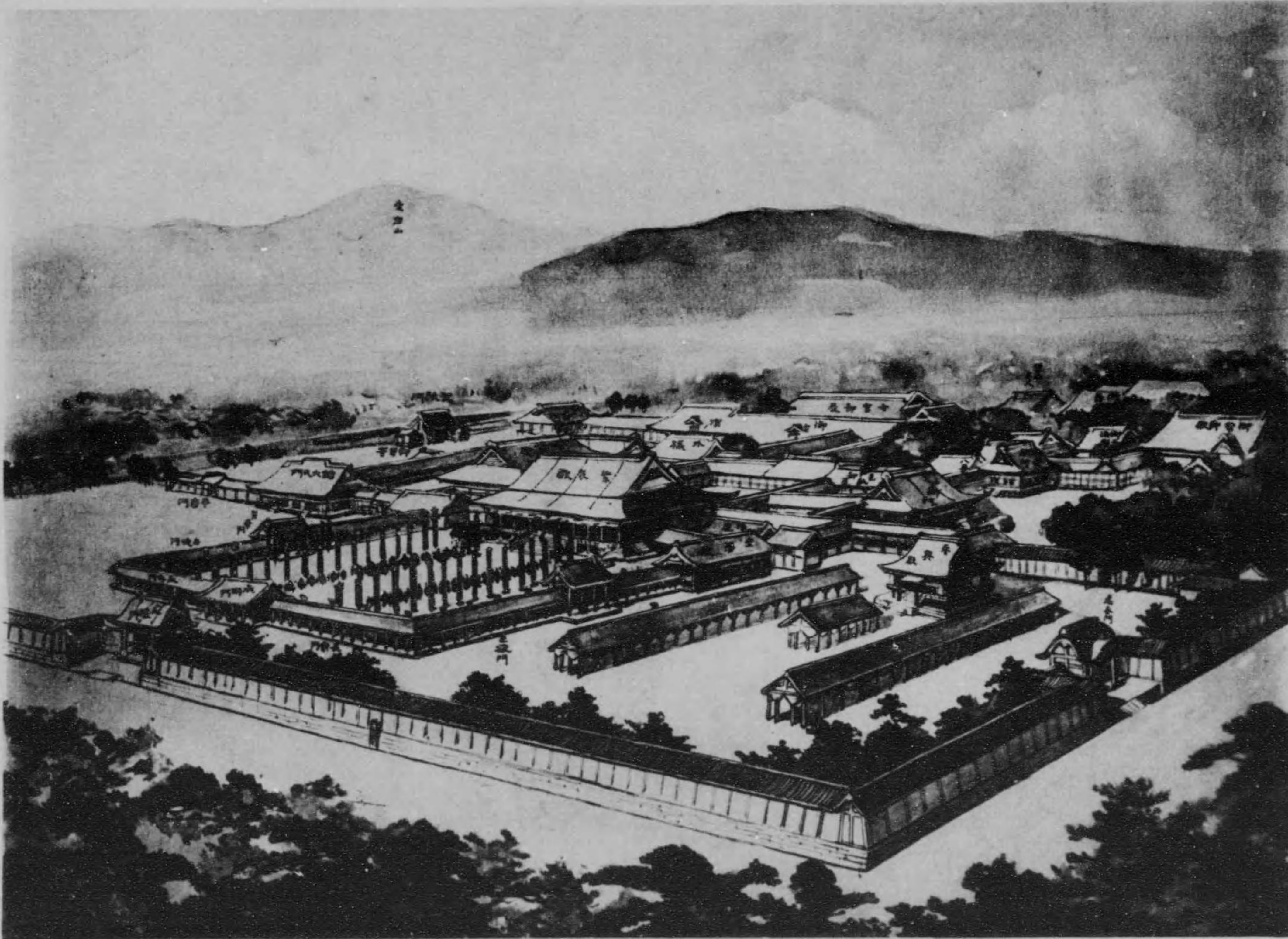


二皇子
高松宮仁親王殿下

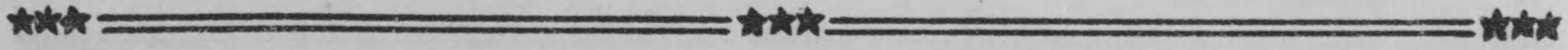




京 都 御 所 鳥 瞰 圖



に心御大しひ給し惜愛を都の安平が皇天治明く全是、ずは給れさ下な命勅の都遷、も際の際東駕車頭初の治明、は市都京しひ荷を榮光の上無てしと地の行舉禮大御
滿皆殿諸め首を殿宮紫しひ給せさ舉を儀大の位即御度此ばれさ。ふ給め定か事ゝるらせは行て於に地の此て總は儀典の禮大もに折の定制範典室皇、れば承うこさく基
。し々神にだふ儀御の都舊、りは





鳳 輦 東 京 御 發 軔



色金に色溜朱は車馬御 ぶ給せさげ舉を典盛 古噴し幸に地の洛京都舊、れさげ遊籠發御を宮帝々熊薄幽、て以を時六前午日六月一十年四正大はに下陸皇天もく長
す御通を門歳万や今にか殿もくし々神、り奉き轡を景風てせらさ轡に手技察馬主の人六きし美飾のルーモ金は馬駿の頭六、げ横を翼鳳金に上の監車御め鐘を章紋御の



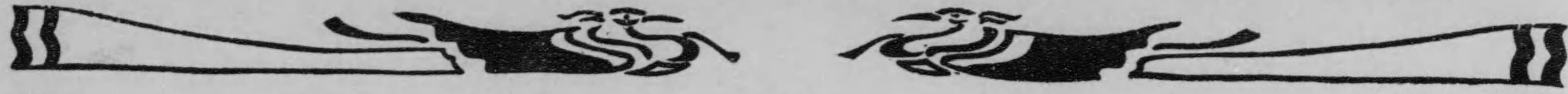


御 進 通 丸 鳥 簿 函

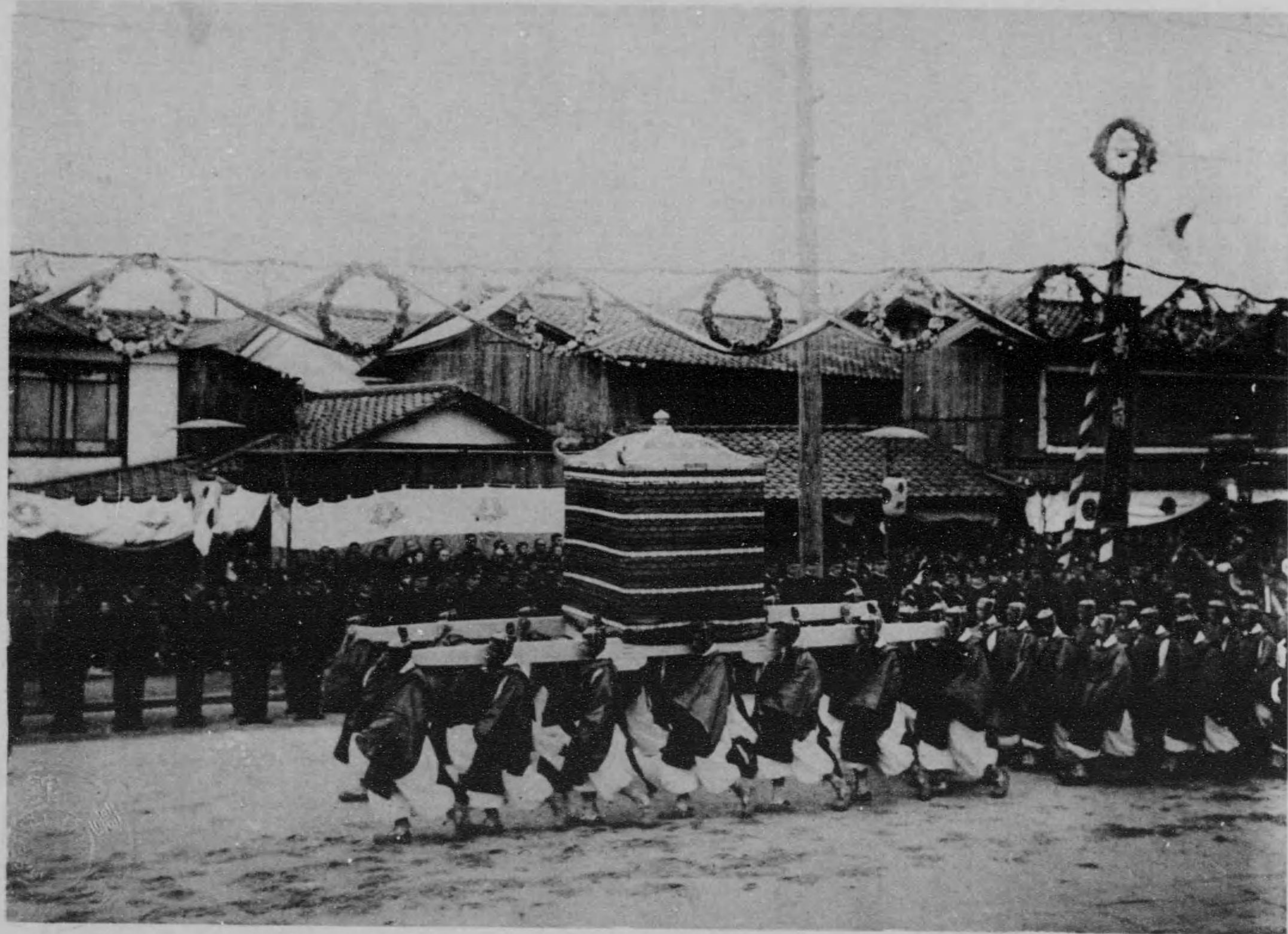


意水容山、に酒を練翠帯一山東、にから期天來朝日此。ふ給せらあ御着へ都京安平路一分五十五時一後午日七月一十、くべらせさげ舉を典大の古蹟はに下陸皇天
むしば似を古の朝安平ろ坐に帯東冠衣るも雅古、てに景光の通通丸鳥の典掌るた臨先簿函は圖。りた似に奉へ迎を駕聖てひ粧相





御 通 通 丸 鳥 車 羽 御



右りよ内門禮建、御進てちだ先に鶯鳳御、し昇奉を之てに妻丁白名六十千童に下の樺指長村潮入本山、御着に都京日七月一十に共さ上聖、は車羽御るせ安奉を所賢
る奉し御移に陣内殿興奉くけら安さいりよに子童潮入、御入に殿興奉てし折

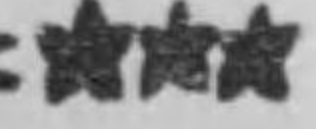
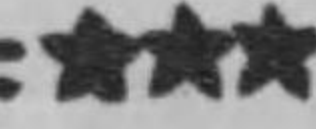




御 通 内 苑 御 簿 函

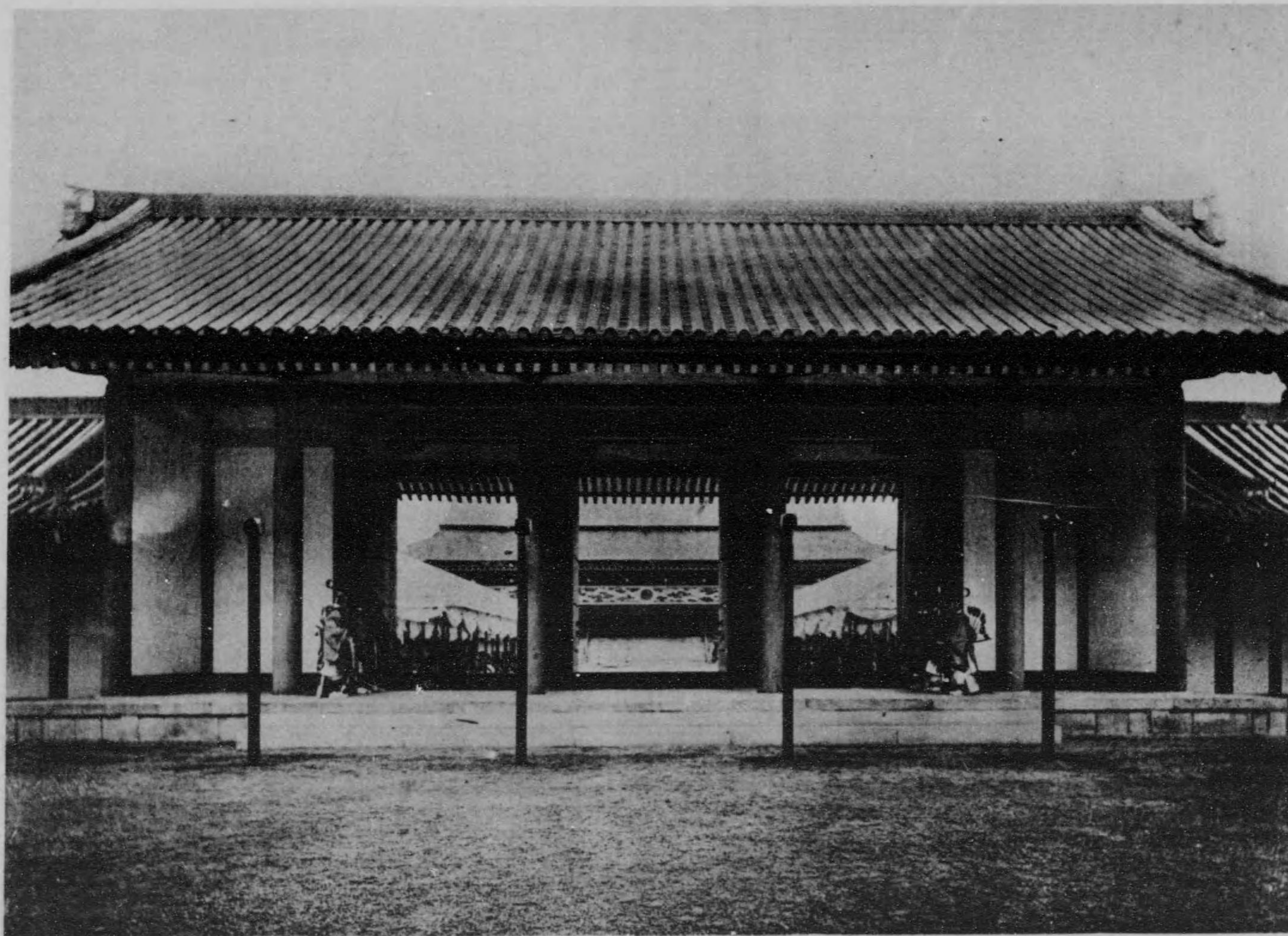


、御進車風てい續、に前を車羽御るせ昇奉の子童瀬入つ先。あらせは向へ宮皇都京りよ門崎町境てしと々齋簿函、やふ給せらあ御着に都京上聖、日七月一十、しらぐ峯を代千は松小の苑御、てみ笑徽にか遙山東ばへ給り入に内苑御、にか殿、にかや緩とい車装儀の虫頭六



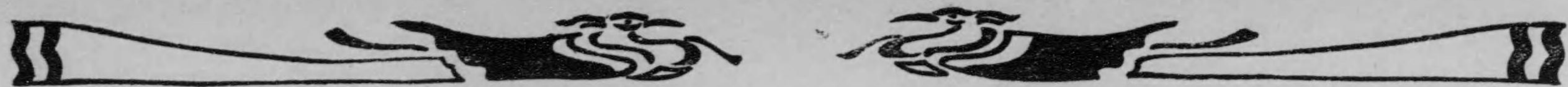


承明門を隔てて紫宸殿を拜す



承明門を隔てて紫宸殿を拜す。是は備前全設鋪の上庭上殿、き就に位本の門常てしに手を弓ひ負を藤胡平、び佩を銀てけ着を冠の御巻、人三各右左の門てしに門明承は面正。りな殿宸紫はるす拜に遠

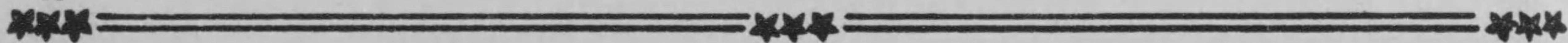




承明門より紫宸殿を拜す

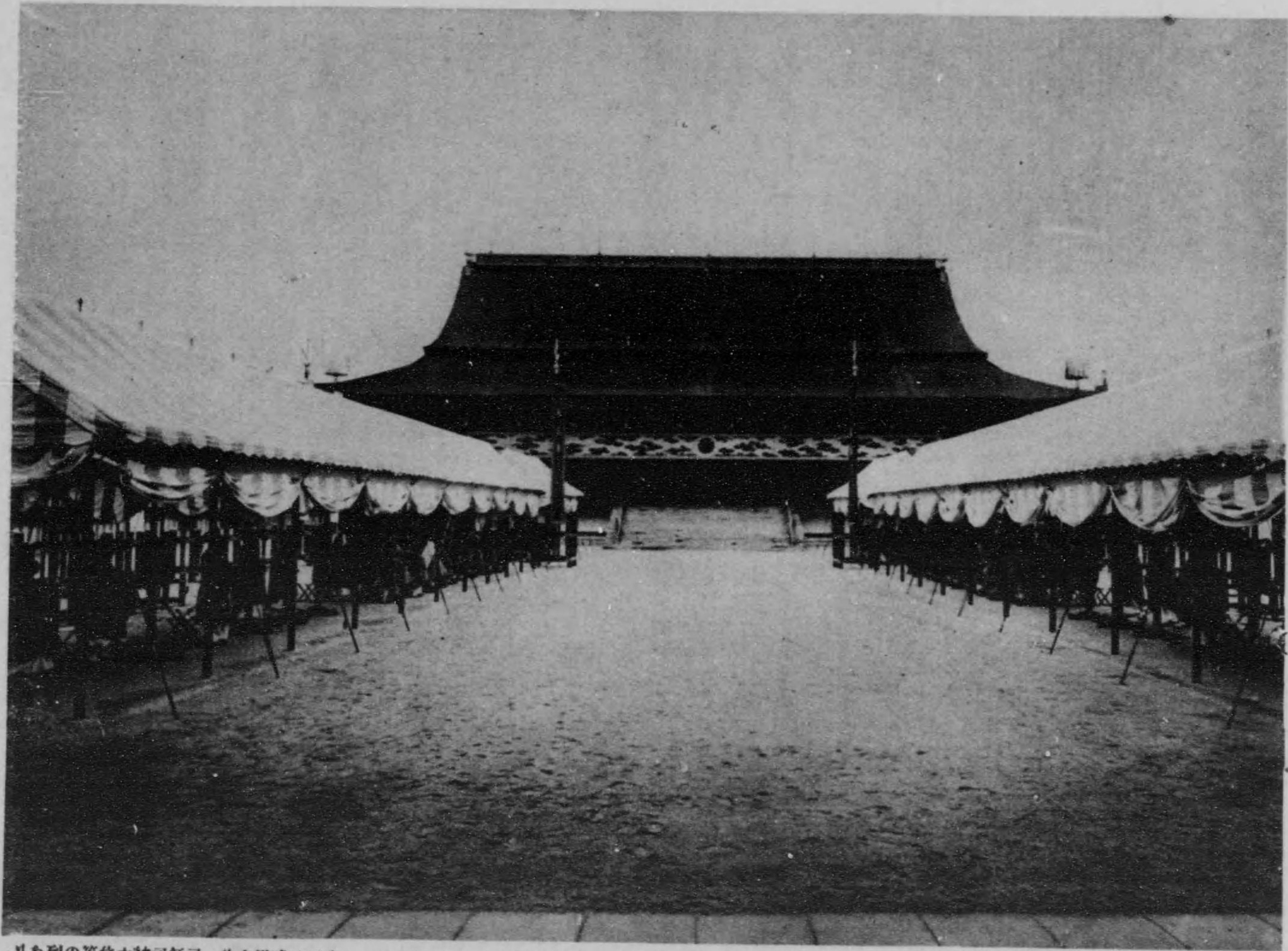


し進臺に腋外門南宛人三右左氏譜の馬有、東伊、蘇山、田戸、村木官等高使禮大はに日當位即御、しに左を門樂長、に右を門安永、り當に門南の殿宸紫は門明承
す拜を殿宸紫に向斜てしにのもるせ寓譚りよ門禮建は眞寫、りたき就に位本の門衛て

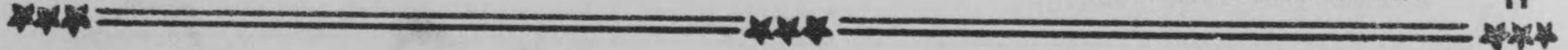




日 當 の 位 卽 御 殿 宸 紫

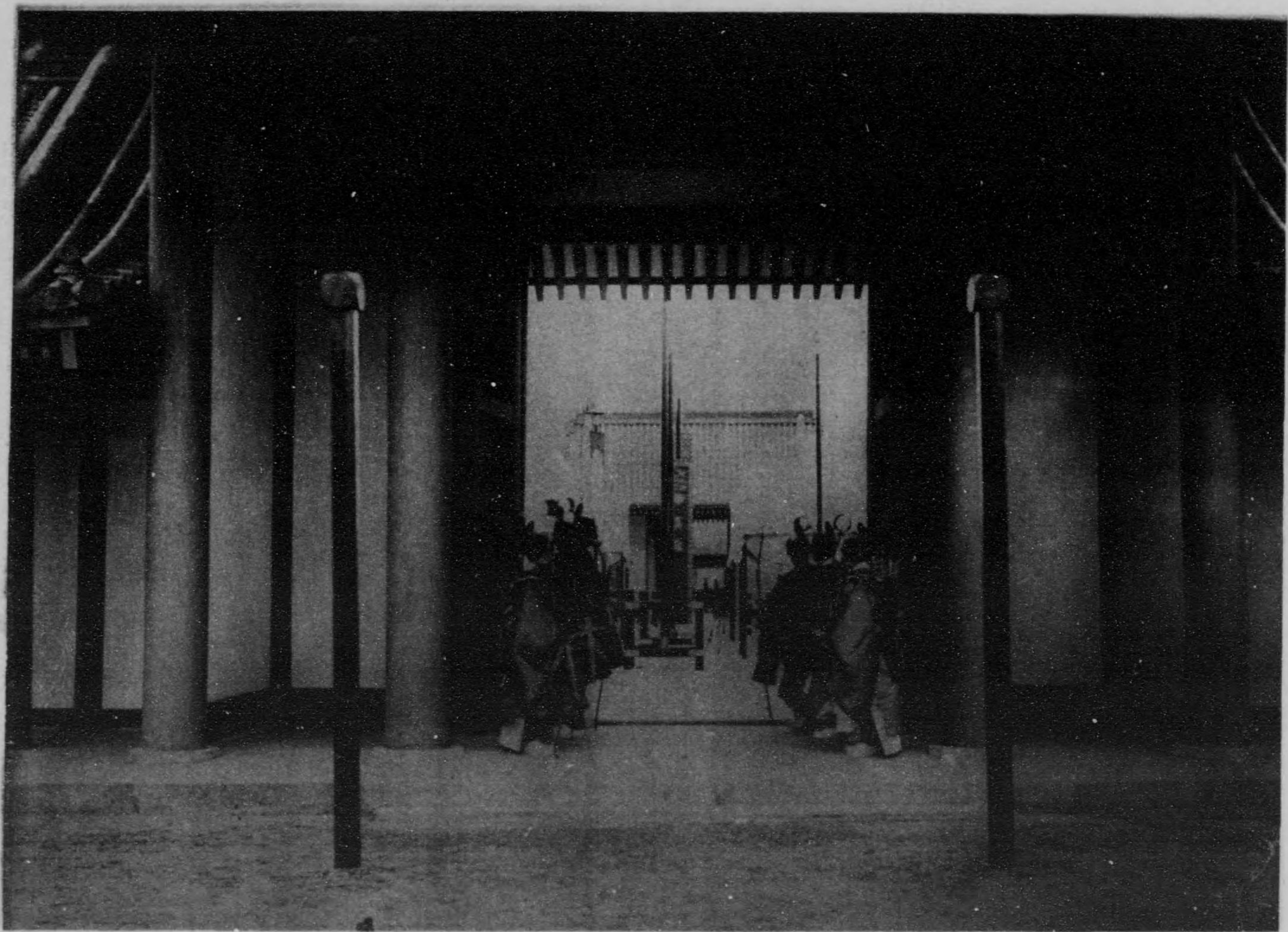


。りあ列の等位本誠司鉦司、位本儀威にに内トマアの側南。むしは徳を影重の都藩ろ坐は橋の近右、欄の近左、てしに間一十二四東間五十北南、さ廣の庭南殿宸紫
。りな藩歳萬は廣大の施二るゆ見に先眞の殿宸紫





む 望 を 門 華 日 り よ 門 華 月



てお率を人二十官任判の束装色經、ち穿を靴の色緋膝縫け着を冠の纏垂に安帯束氏兩繖廣林、鎮葛芝、日當位即御へし位よ側左は門華日、に側右の殿宸紫は門華月
りたき就に位本の號司無可、し進参りよ門兩





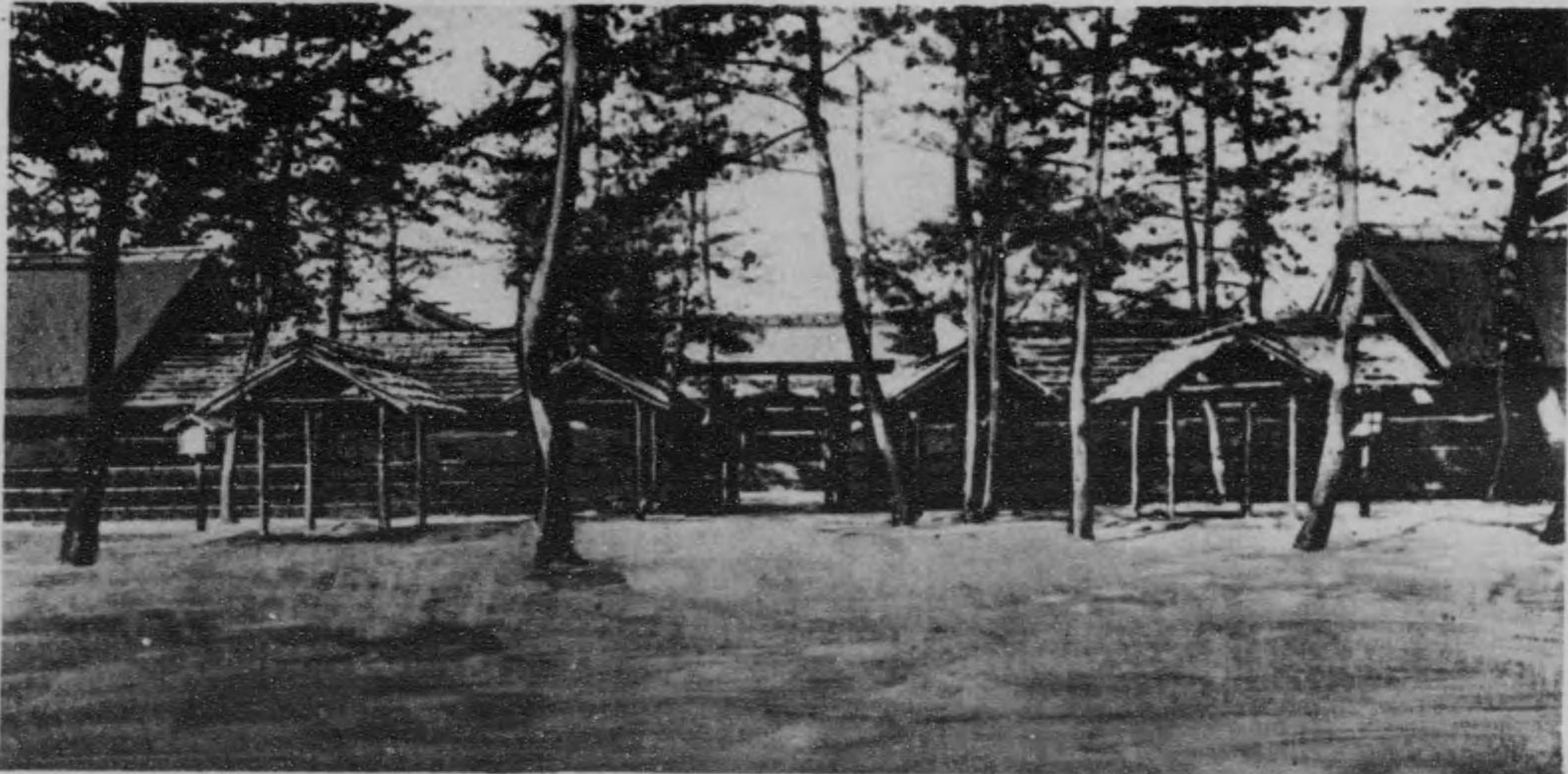
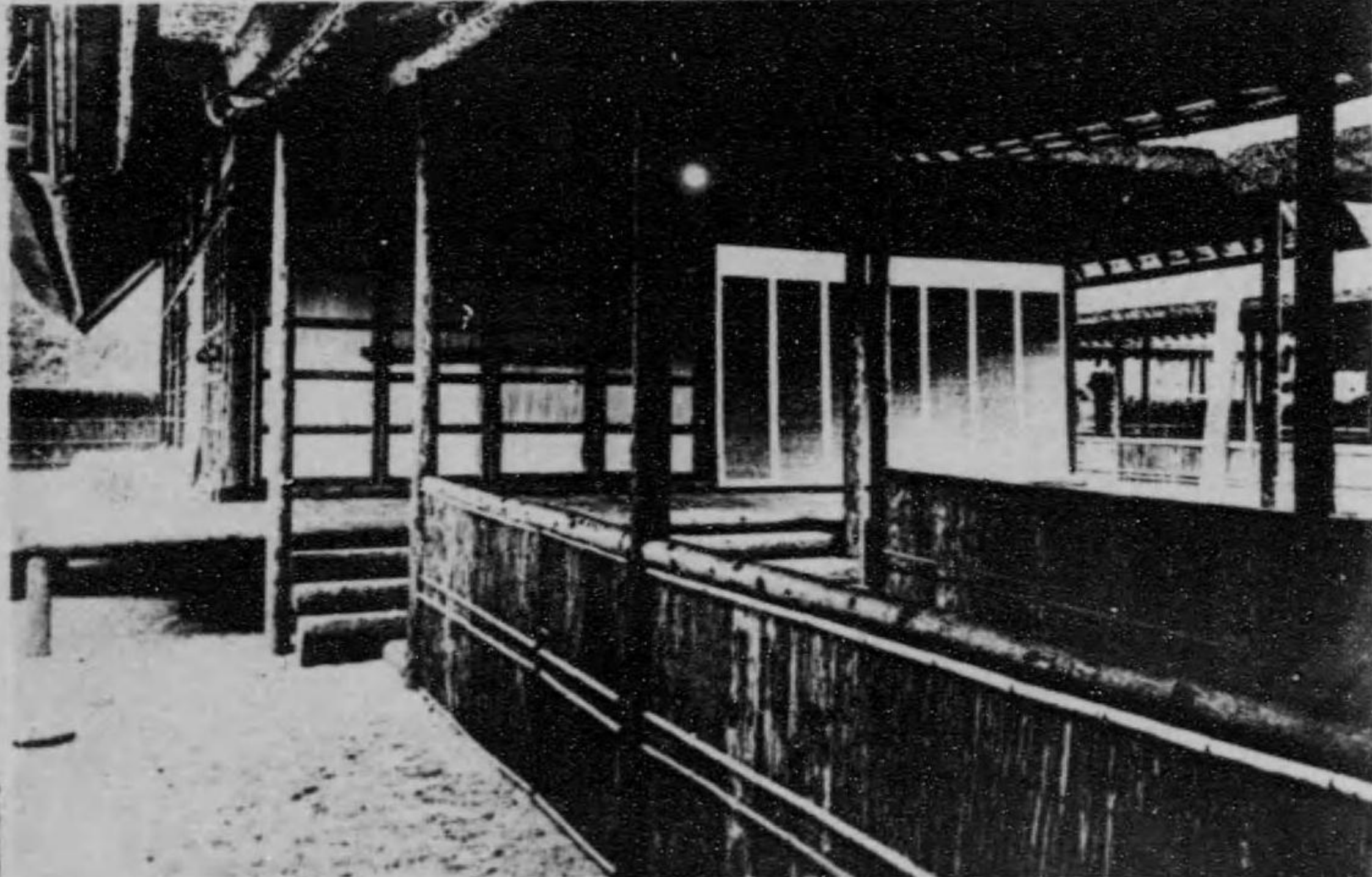
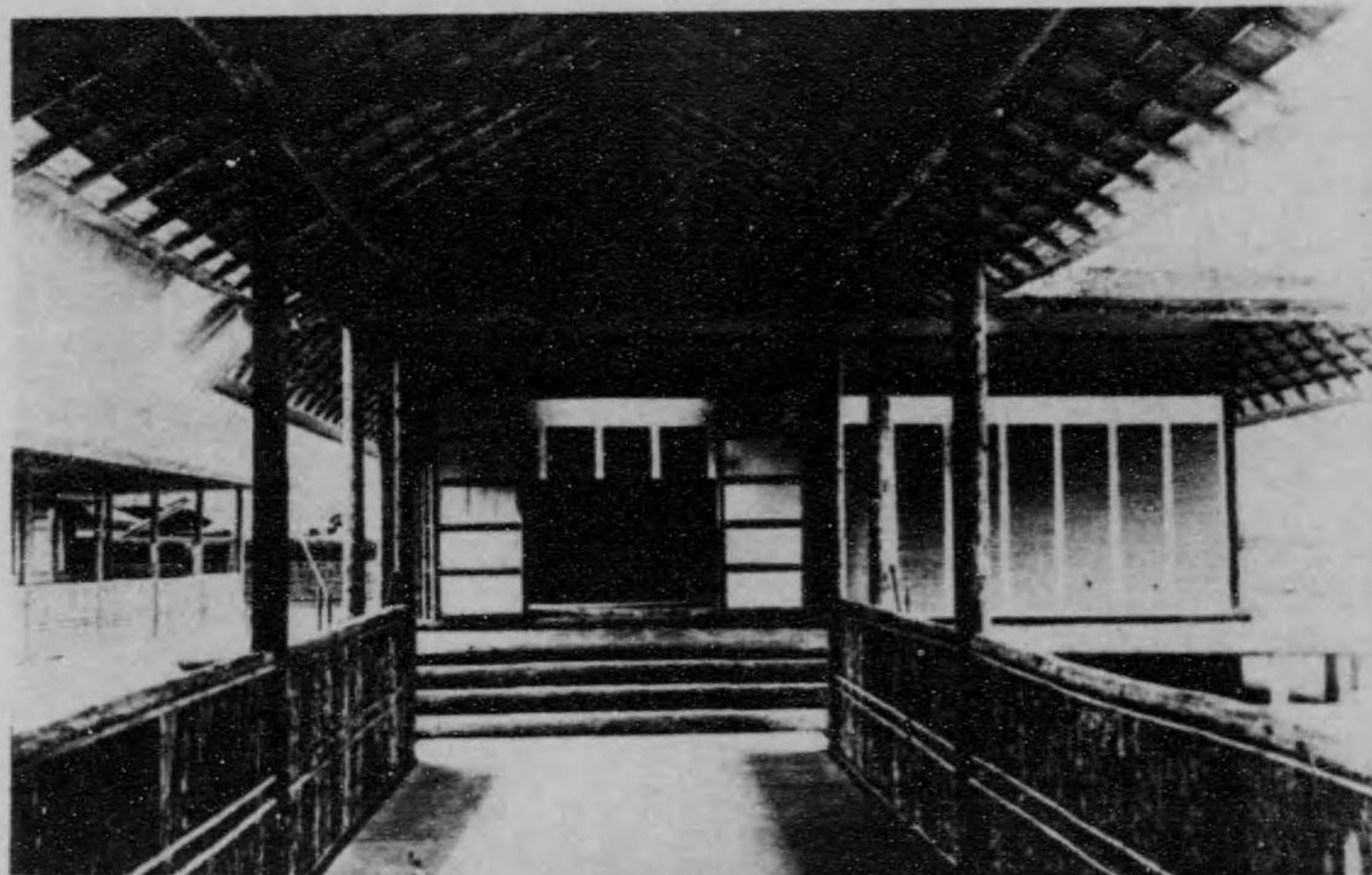
座 御 高 と 内 の 殿 宸 紫



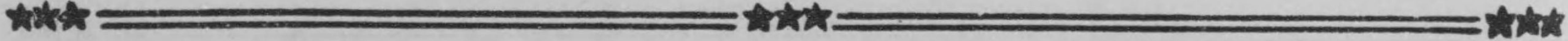
三はに央中の殿、し渡き引を額相の像日るたひ楯を雲端の彩五はに紫南の殿日此。たふ給せさげ舉を儀大の位即御て於に殿宸紫、下陸上聖しく長は日十月一十。
す拜を臺帳御の座御下陸后皇はに東の座御高。る垂く深帳御、し安奉を座御高の婚玉鳳金に上の壇欄塗黒の没



(2) 宮 菅 大 (1)

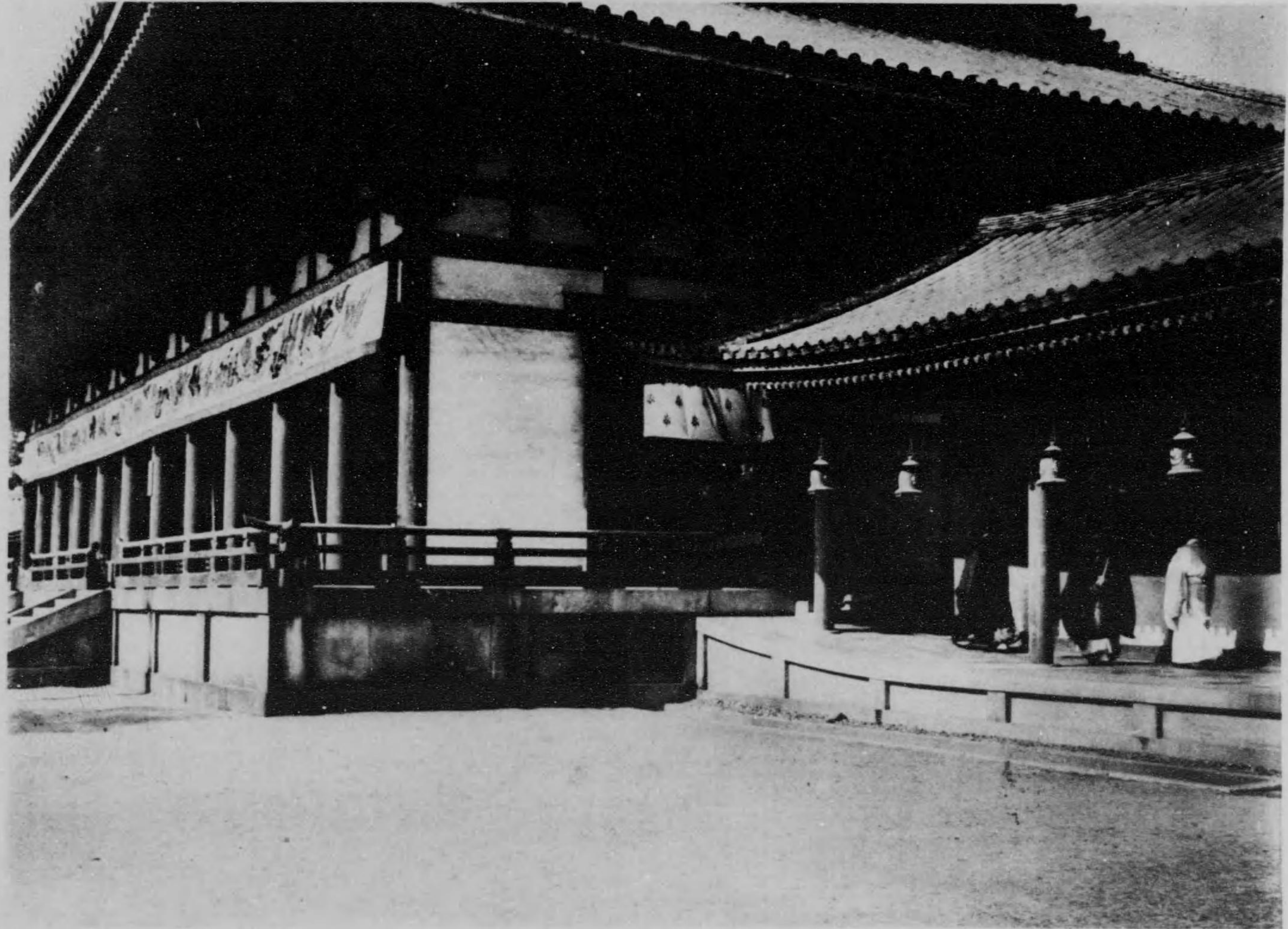


ふ云々宮菅大とし稱徳を之、り祀を紙地神天び及神大照天に共殿兩。るらげ殿に西は基主に東は紀悠、れらせ築新に庭廣の所御洞仙内宮皇都京は殿基主び及殿紀悠
 正の宮菅大(3)殿紀悠(2)殿基主(1)の圖。るらせは行てし撤を夜迄時五同りよ時一前午日五十は儀の饌供殿基主、迄時十同りよ時六後午日四十月一十は儀の饌供殿紀悠
 才拜を面





大嘗祭奉幣使安平神宮に入る



大嘗祭奉幣使安平神宮に入る。奉幣使は、皇天武垣に祀る神に、幣を奉るに、神宮に入る。奉幣使は、皇天武垣に祀る神に、幣を奉るに、神宮に入る。奉幣使は、皇天武垣に祀る神に、幣を奉るに、神宮に入る。

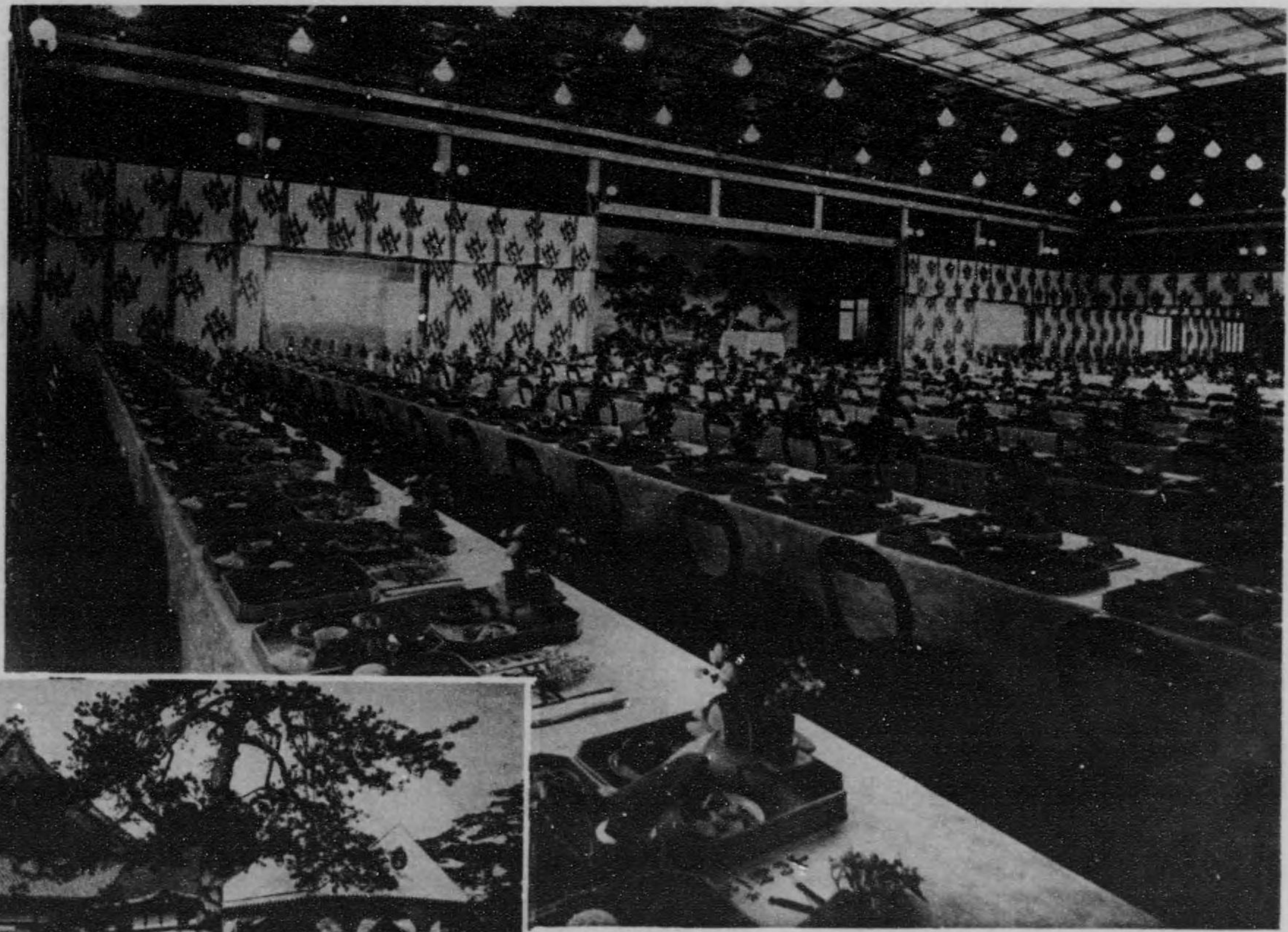




大饗宴場と御車寄

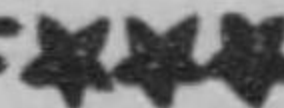


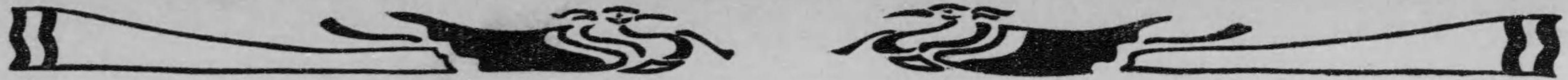
(1)



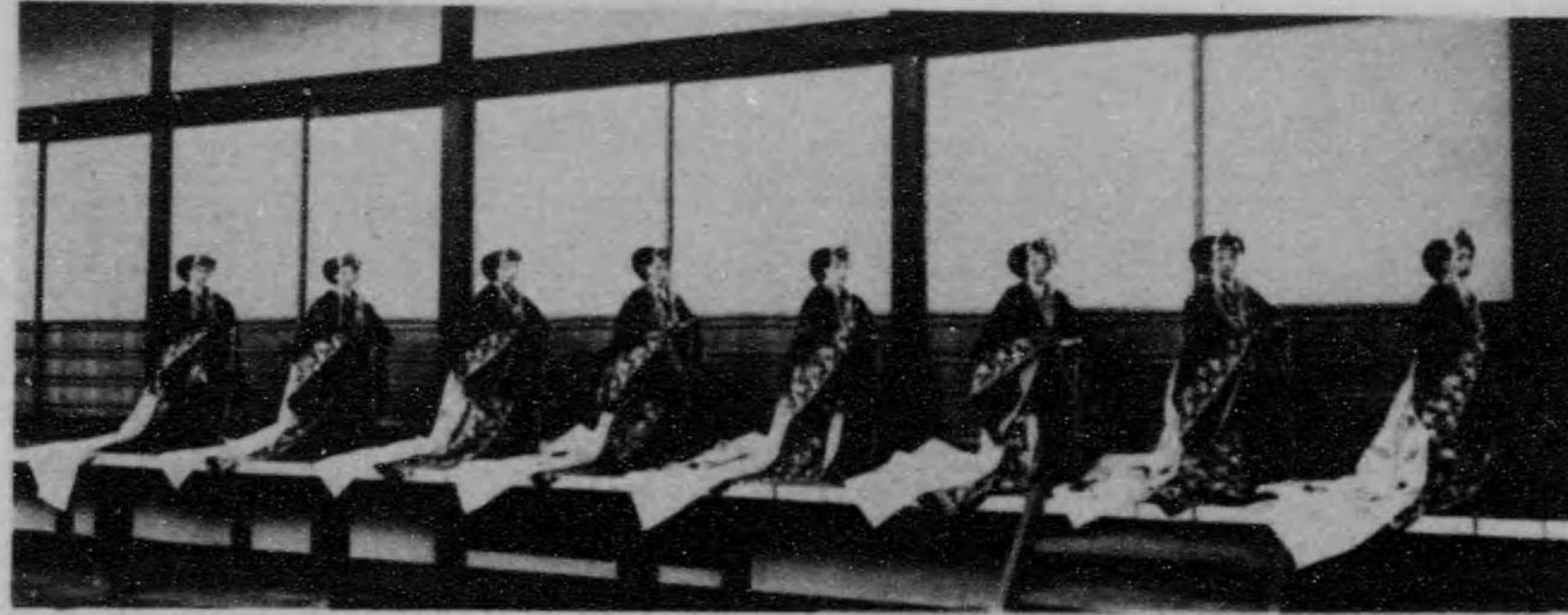
(2)

餘千一等節使國外、官百武文、り奉め首を下殿族皇各に場宴饗大内宮離條二午正日六十月一十、れらせら訖を儀の祭管大び及禮の位即はに下陸皇天、場宴饗大(1)
。寄車御の宮離條二るた場宴饗大(2)きひ給せさげ舉を孟祝の歳萬運皇てひ給ち頭の下臣を殿新、ひ賜を華神酒儲酒黒酒白、れらせさ召を名

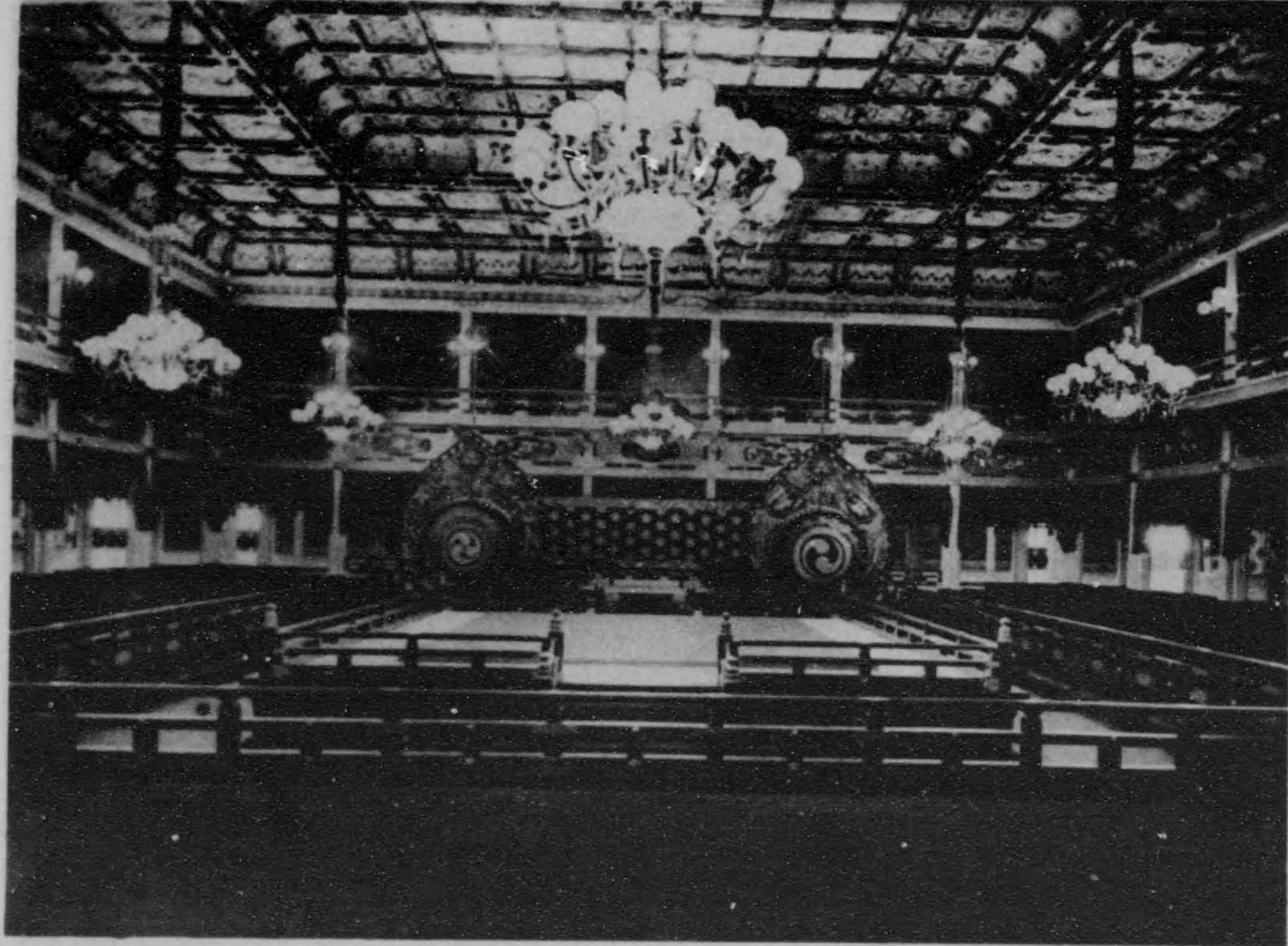




姫舞節五と殿樂舞

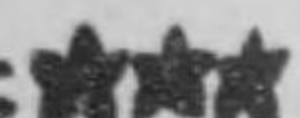


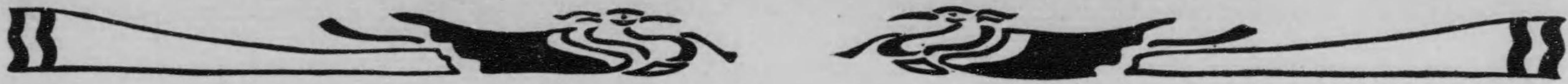
(2)



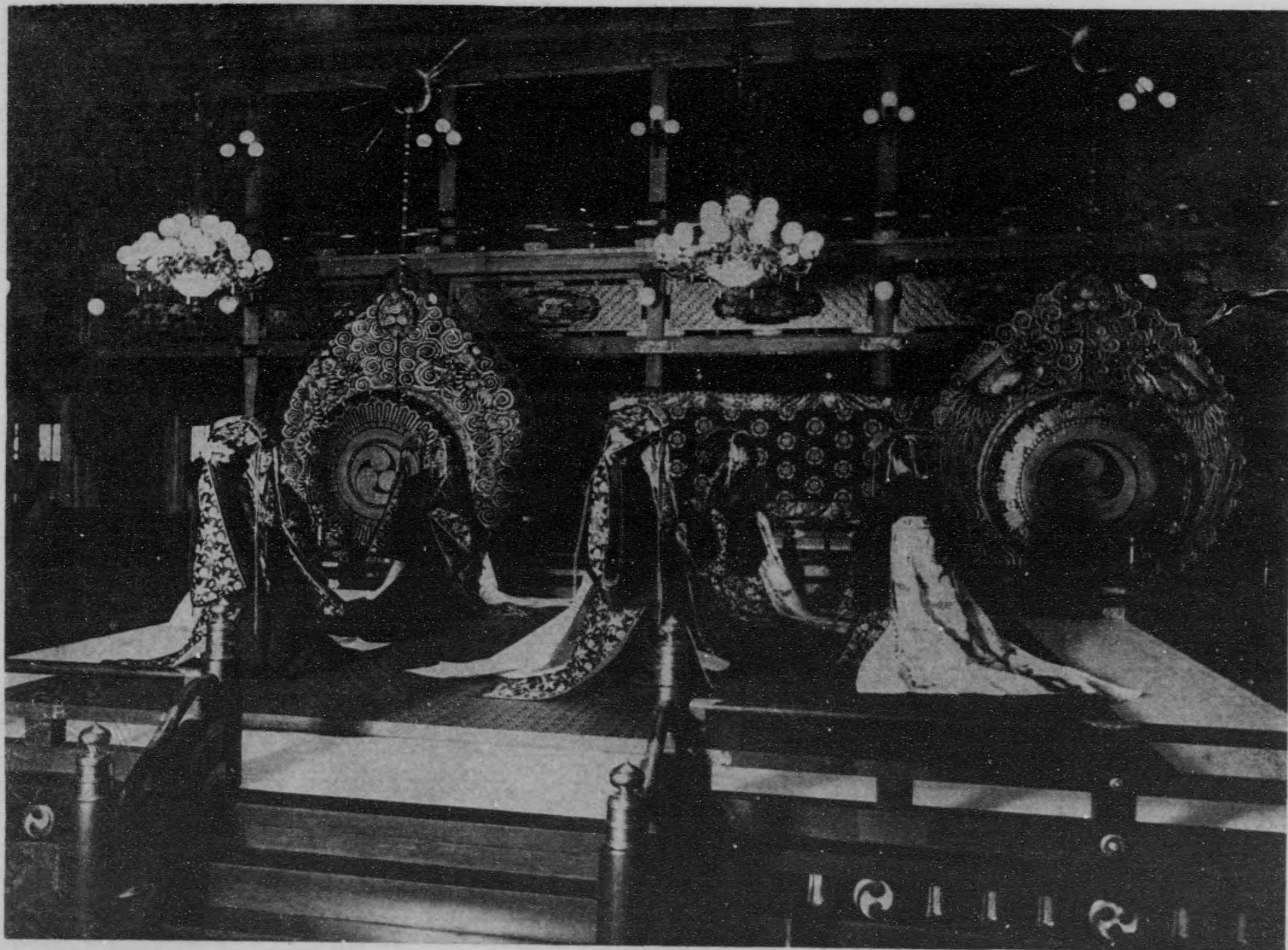
(1)

の個二てしに殿樂舞の内場宴饗大は(1)の眞寫。ふ給ち頭を歡ひ賜を語勅くし親てしまし御出上聖、れ列を臣使の國々八十は外、め集を官百司有は内、はに儀の日一第饗大。
りな所む進に殿樂舞てしま々除歩躰、姫舞節五は(2)。ふ集に園周く如の星羅綺員列參、し拜に央中方北は座玉、れらせ配に右左而正鼓太廻





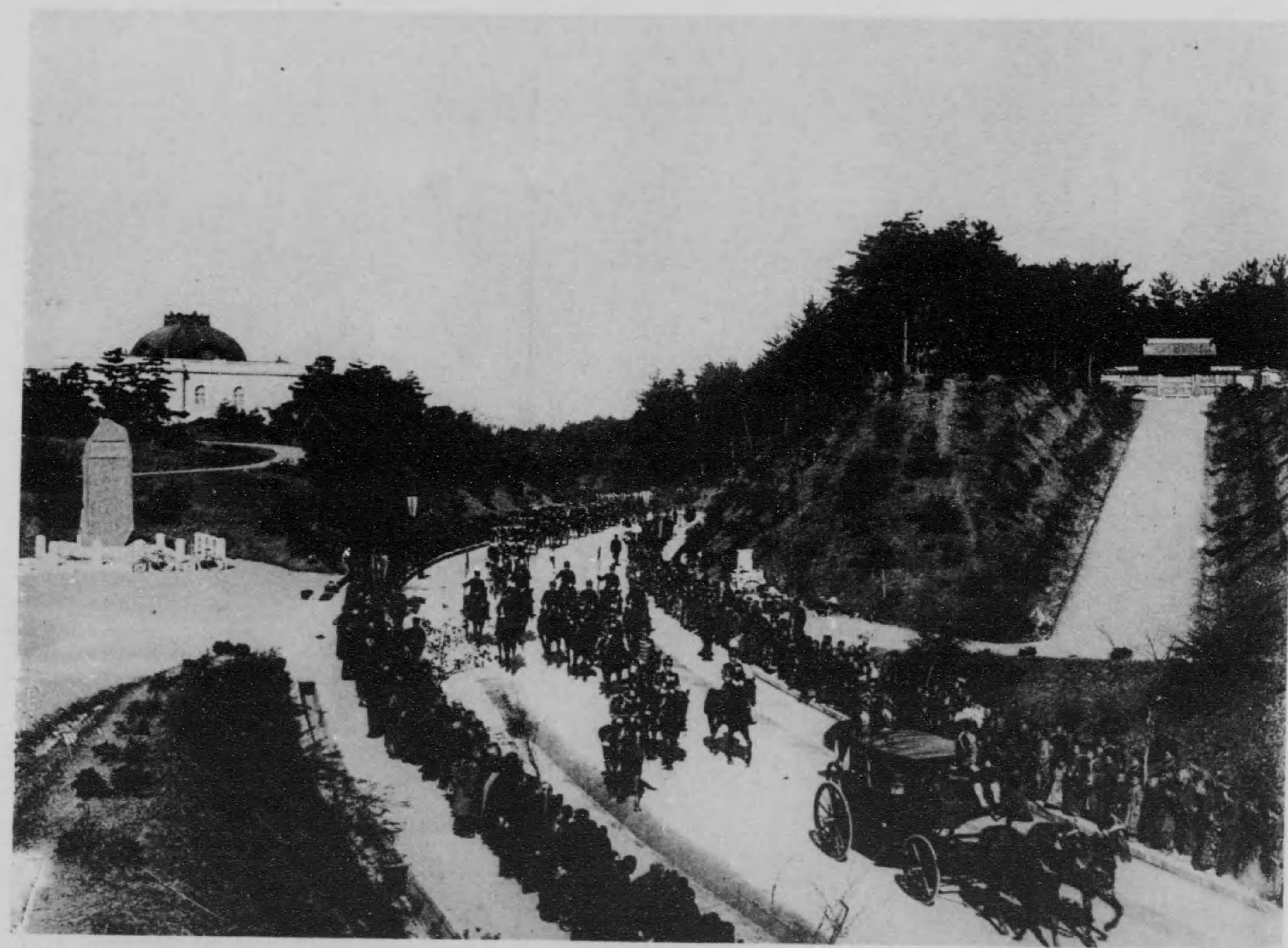
大 饗 宴 場 の 五 節 舞 樂



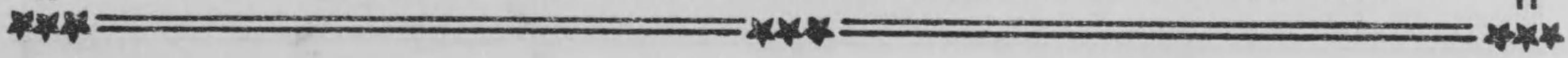
小女かさめさびす玉、秋まきなをさびさめ『さびさめ』給ひけんてん武の帝古事此に引給ひ、雲にあらはれん女に准へる五節舞、は
十一月十六日大年饗宴第一の日儀に奉仕、學樓、室、樂の音につて高麗の五節舞を觀覽し奉る。



御 通 下 館 古 徴 簿 鹵

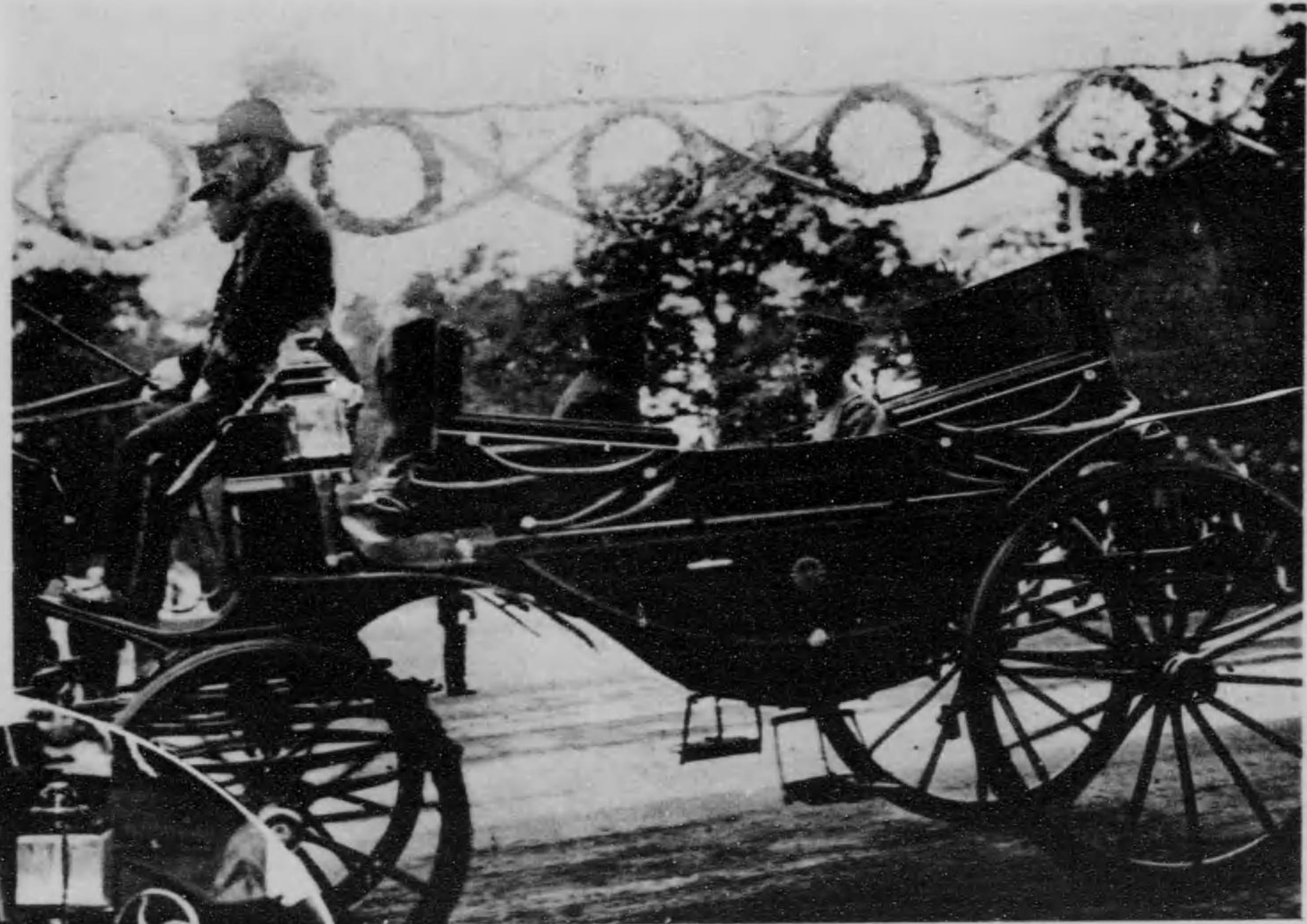


御着に宮帳分十四時九て鐘、門出御時九前午爲の誤親御宮外、れまば遊齋梨御且早日十二翌、れらせらあ幸行に田山の勢伊の風神、日九十月一十はに下陸皇天。
りな様有の通通御下館古徴後親御宮外は眞寫。るらせらあ幸還御下退てりあ拜禮御御着に座御の床大御入に内門御垣端、れまば遊更召御上の





御車の上の皇太子殿下と二皇子



皇太子殿下

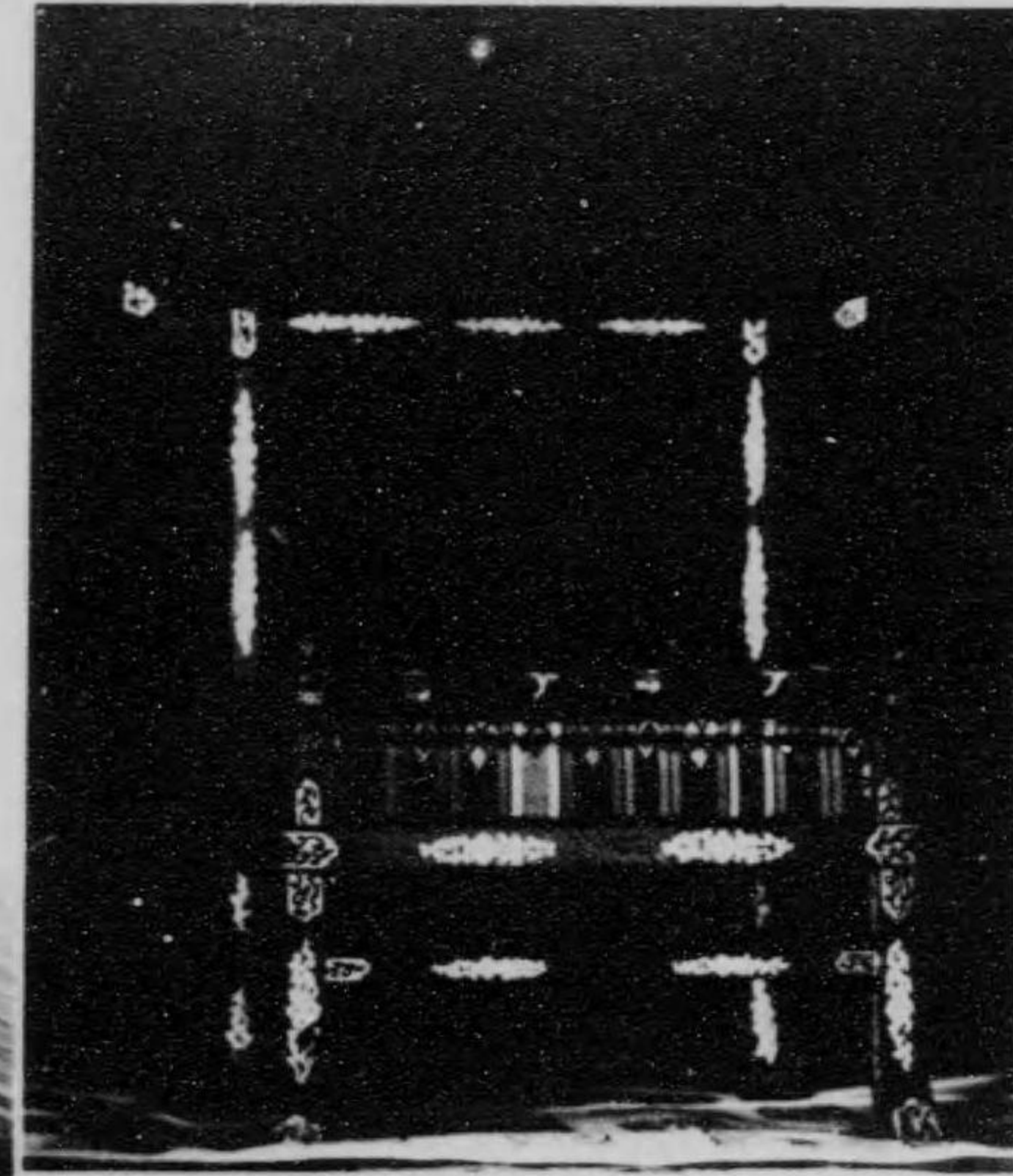
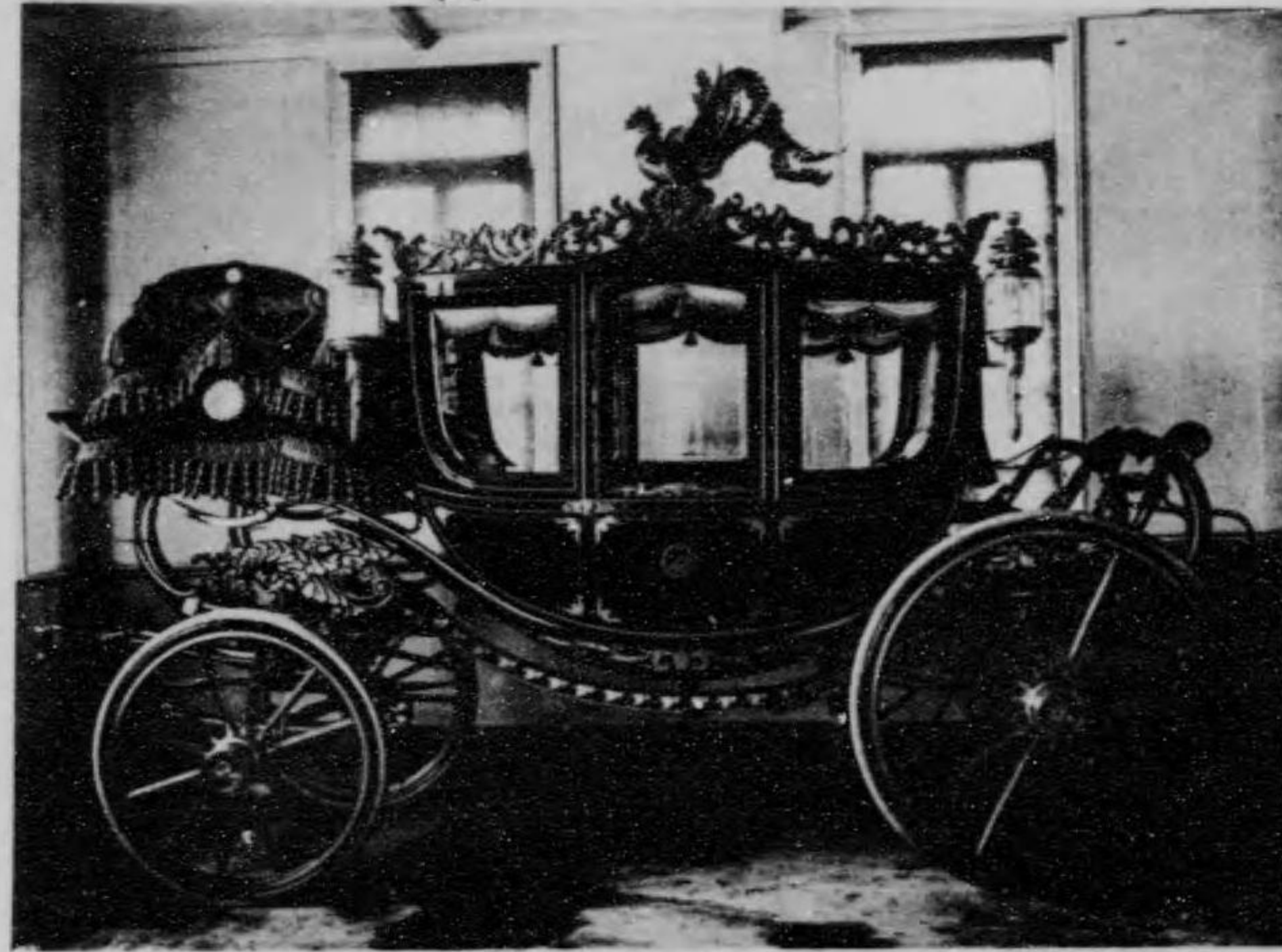


第二皇子淳宮仁親王殿下 第三皇子高松宮宣仁親王殿下

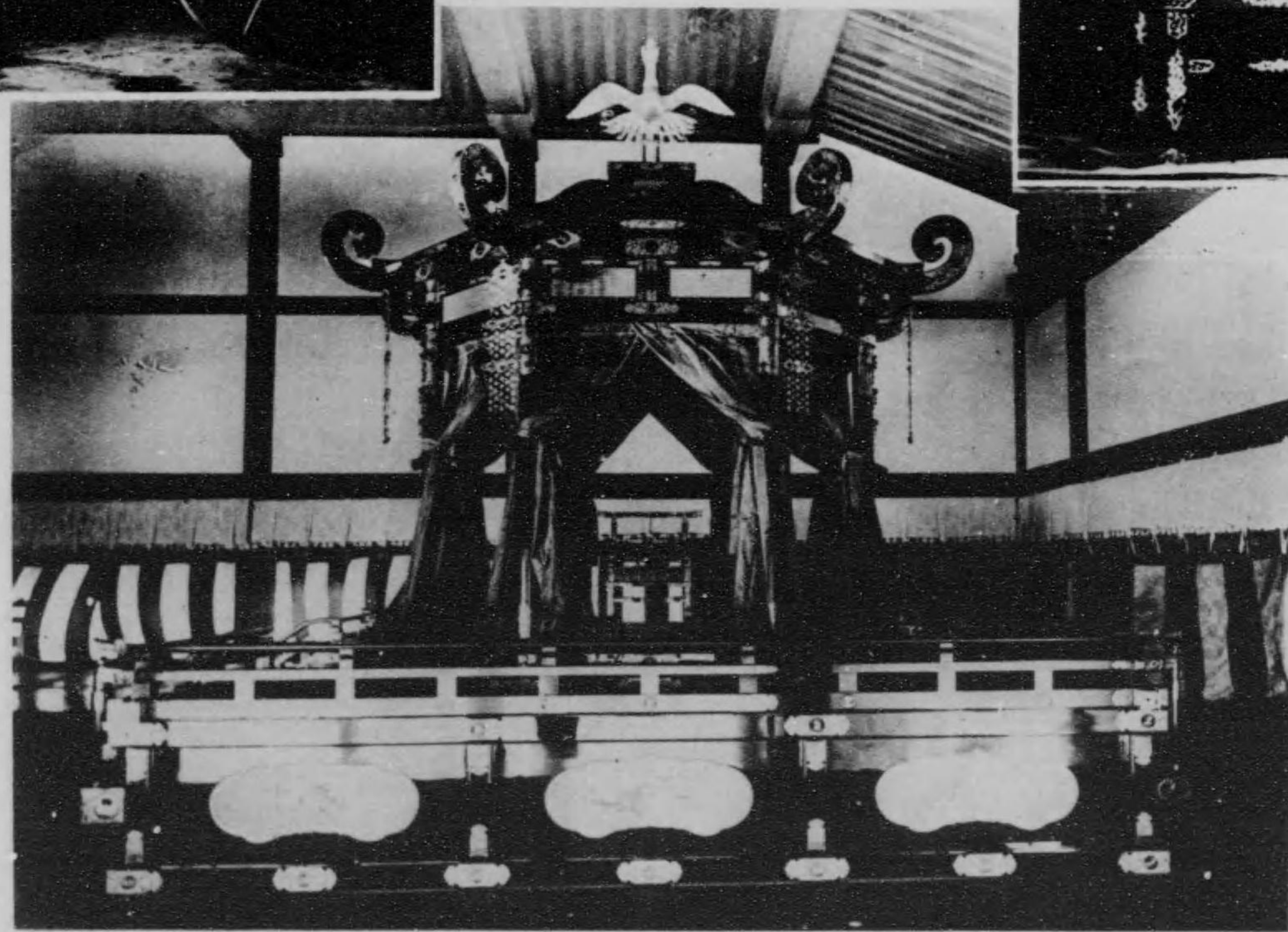




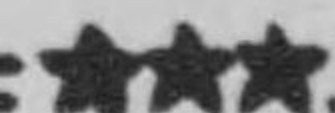
(3) 籠 鳳 子 椅 御 座 御 高 (2)



(1)



壇殿の傍黒てし面南に中央殿演業は座御高。ふ給せら宜を儀大の位即てつ把を笏牙、ひ給せら昇に座御高て以を時三後午日十月一十はに君大我もく長、座御高(1)
 籠鳳(3)、子椅御(2)。す安奉に上の床濱御の尺八十北南、尺十二西東て立を

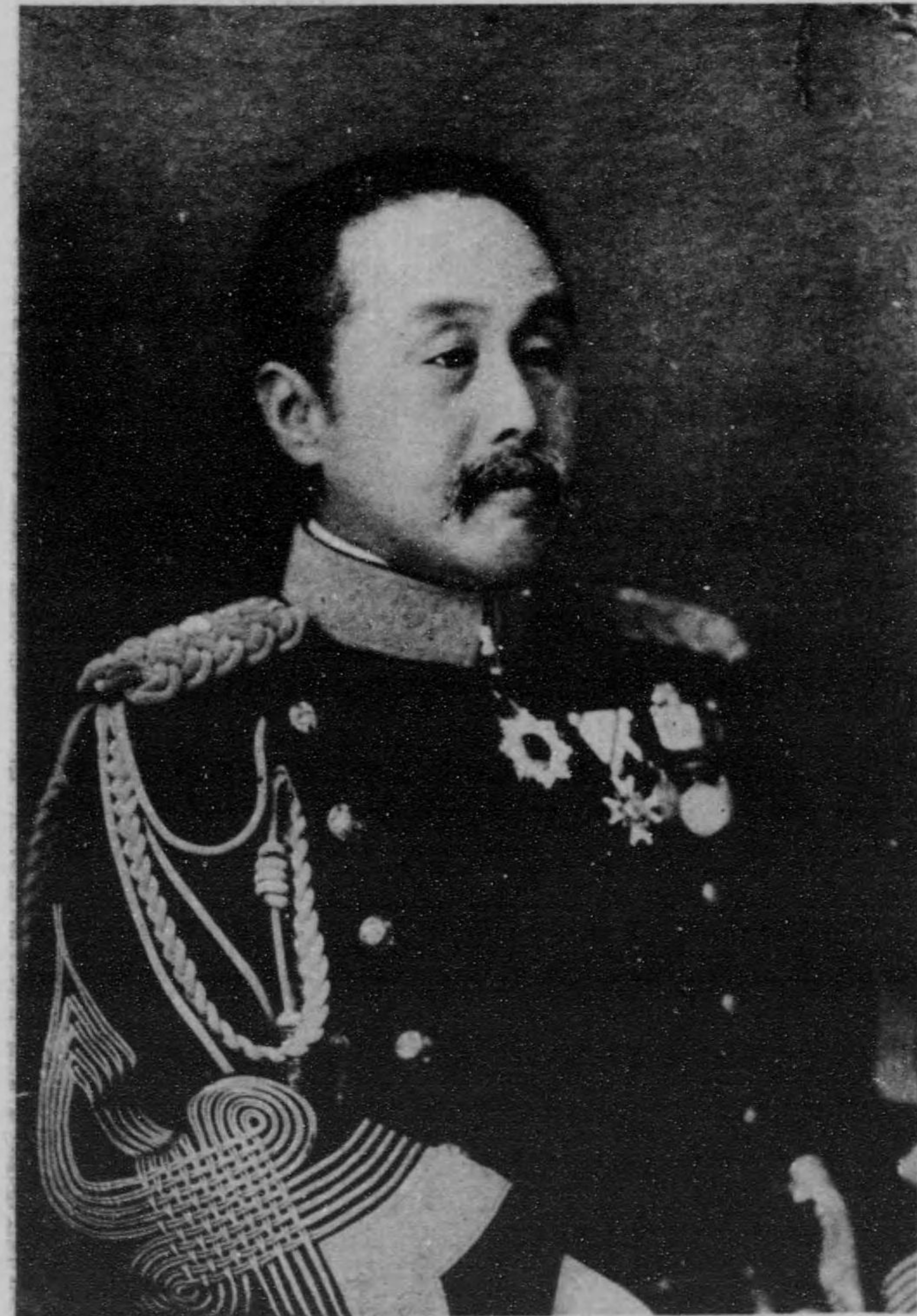




使

禮

大



公 卿 照 司 廣 官 長 使 禮 大

下 殿 王 親 愛 貞 宮 見 伏 殿 總 使 禮 大

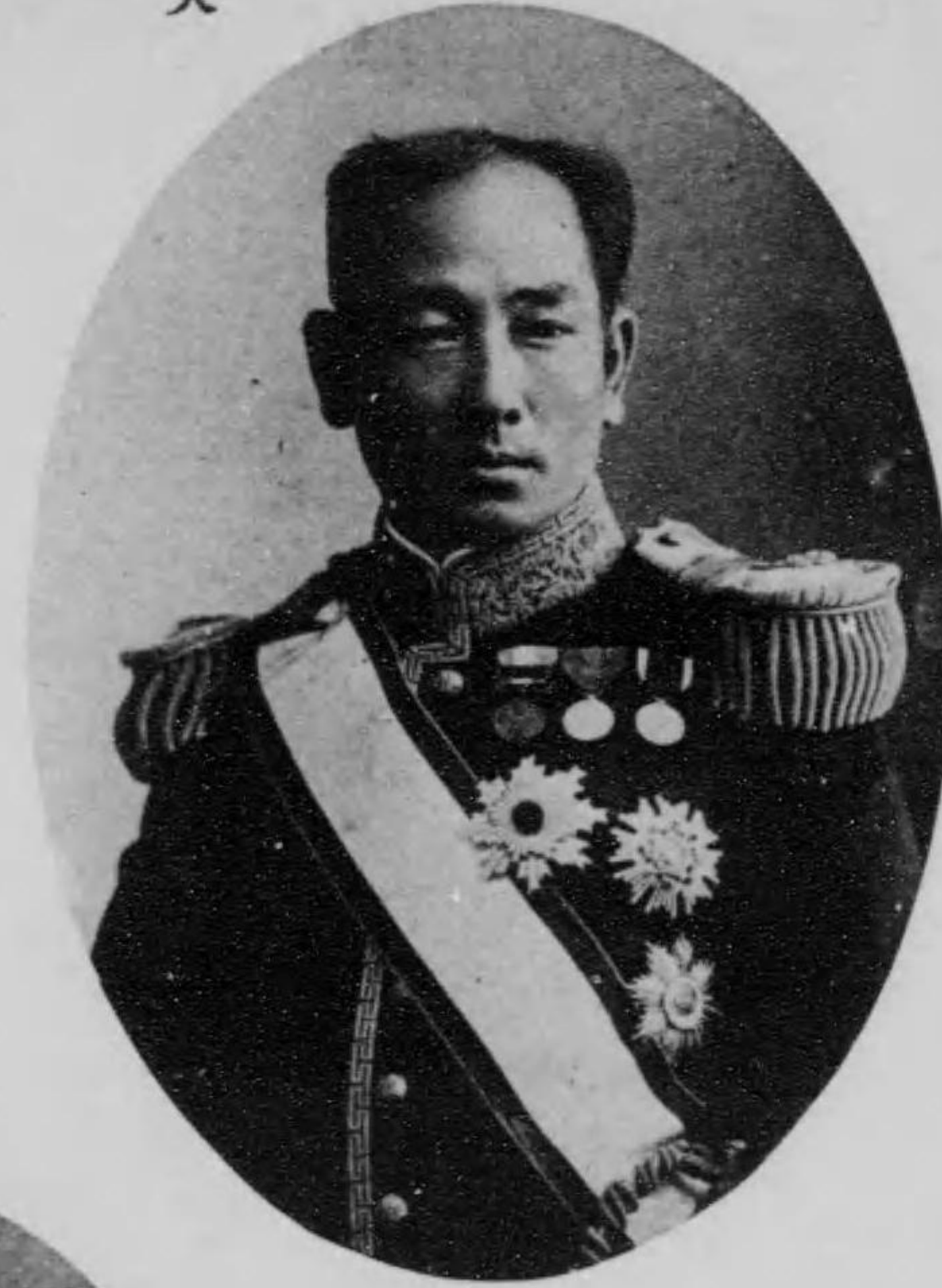




大 禮 使 の 任 命



大禮使御掛 川 潤 次 郎 男



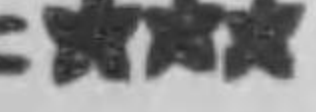
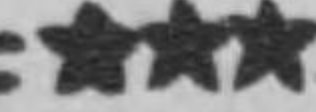
大禮使御掛 伊 東 巳 代 治 子

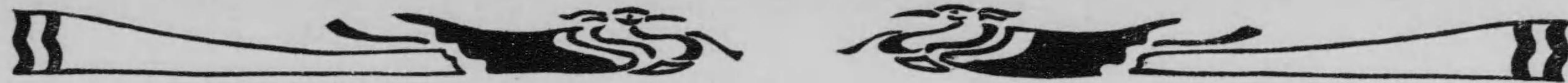


大禮使官 石 原 健 三 氏

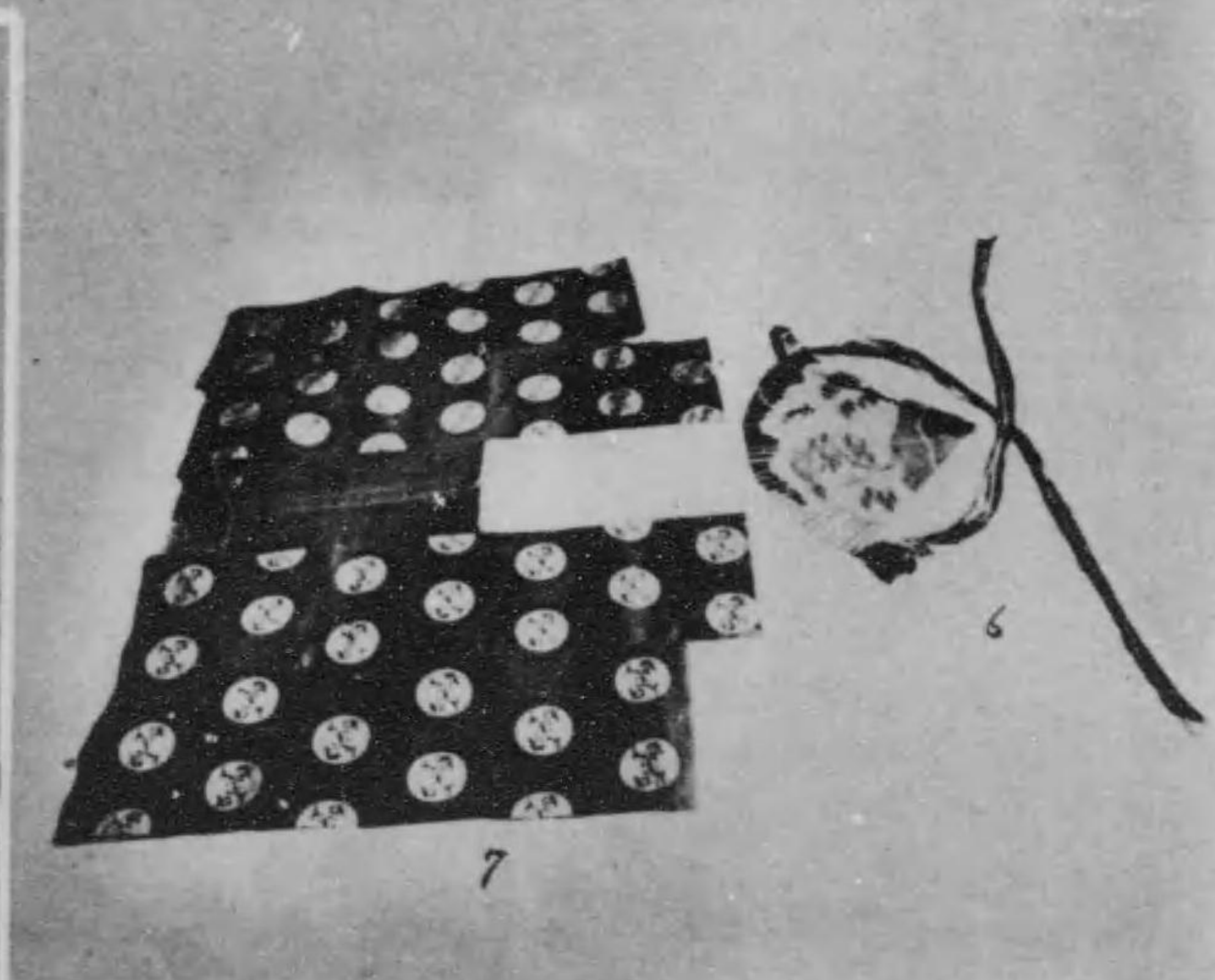
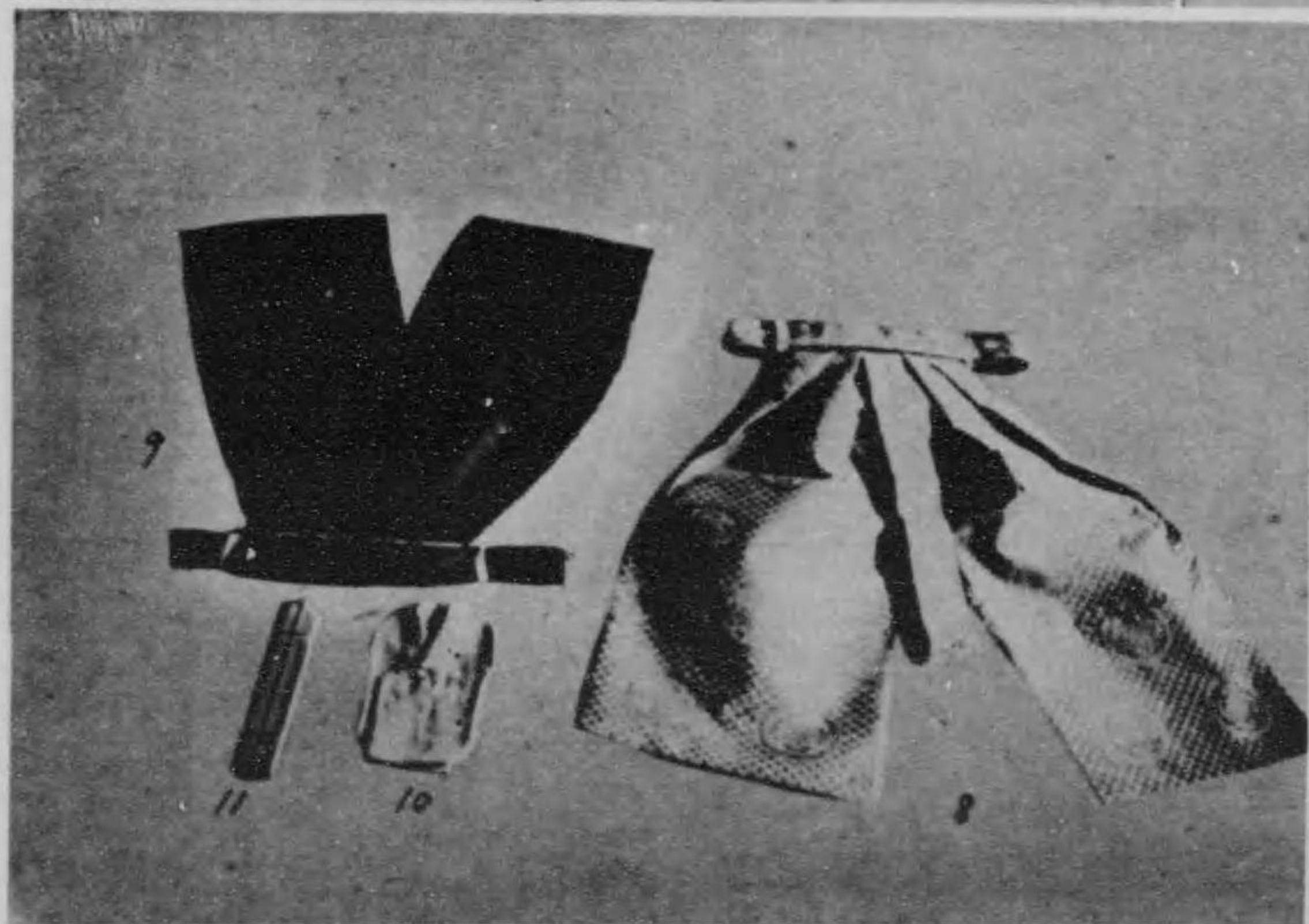
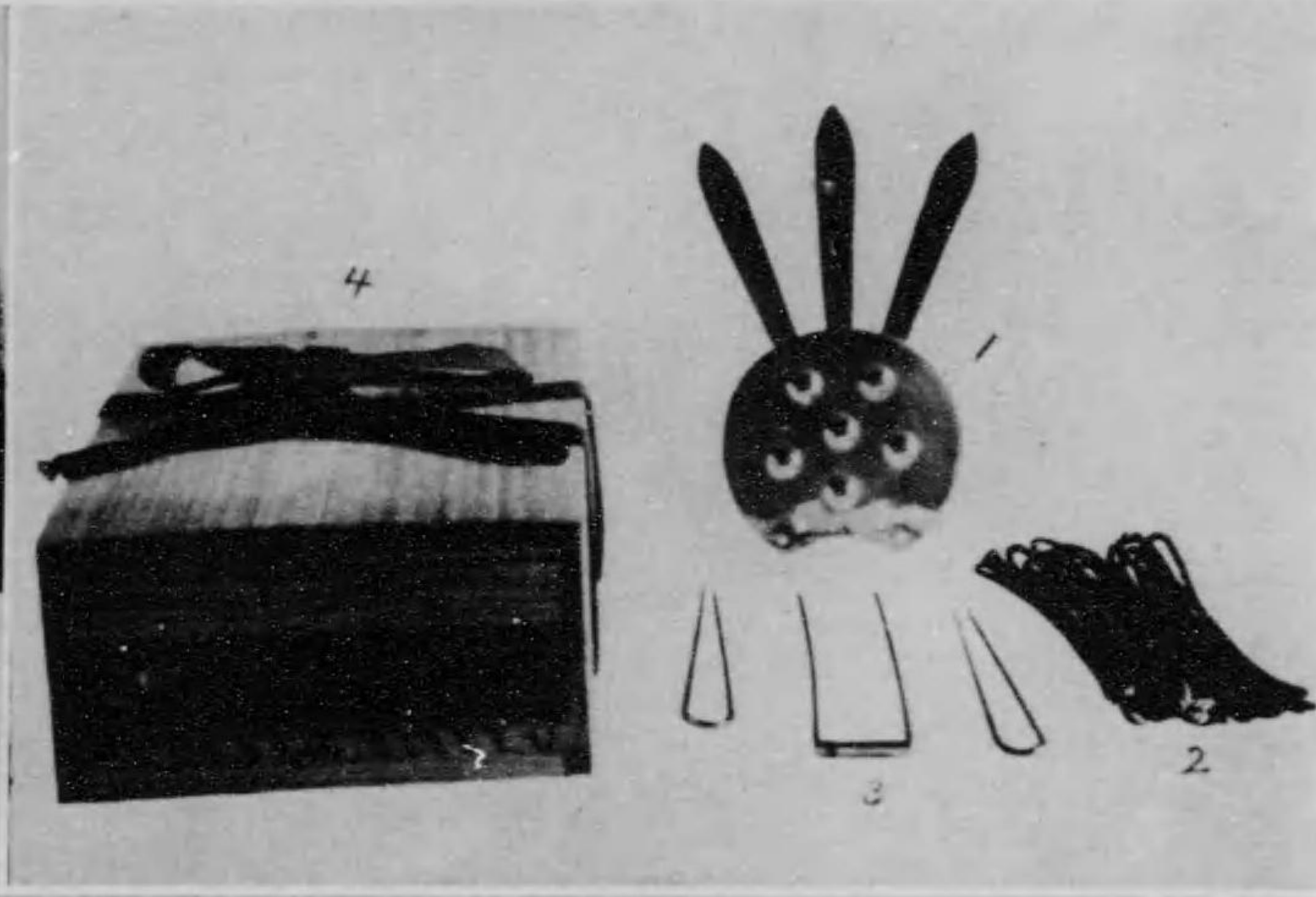
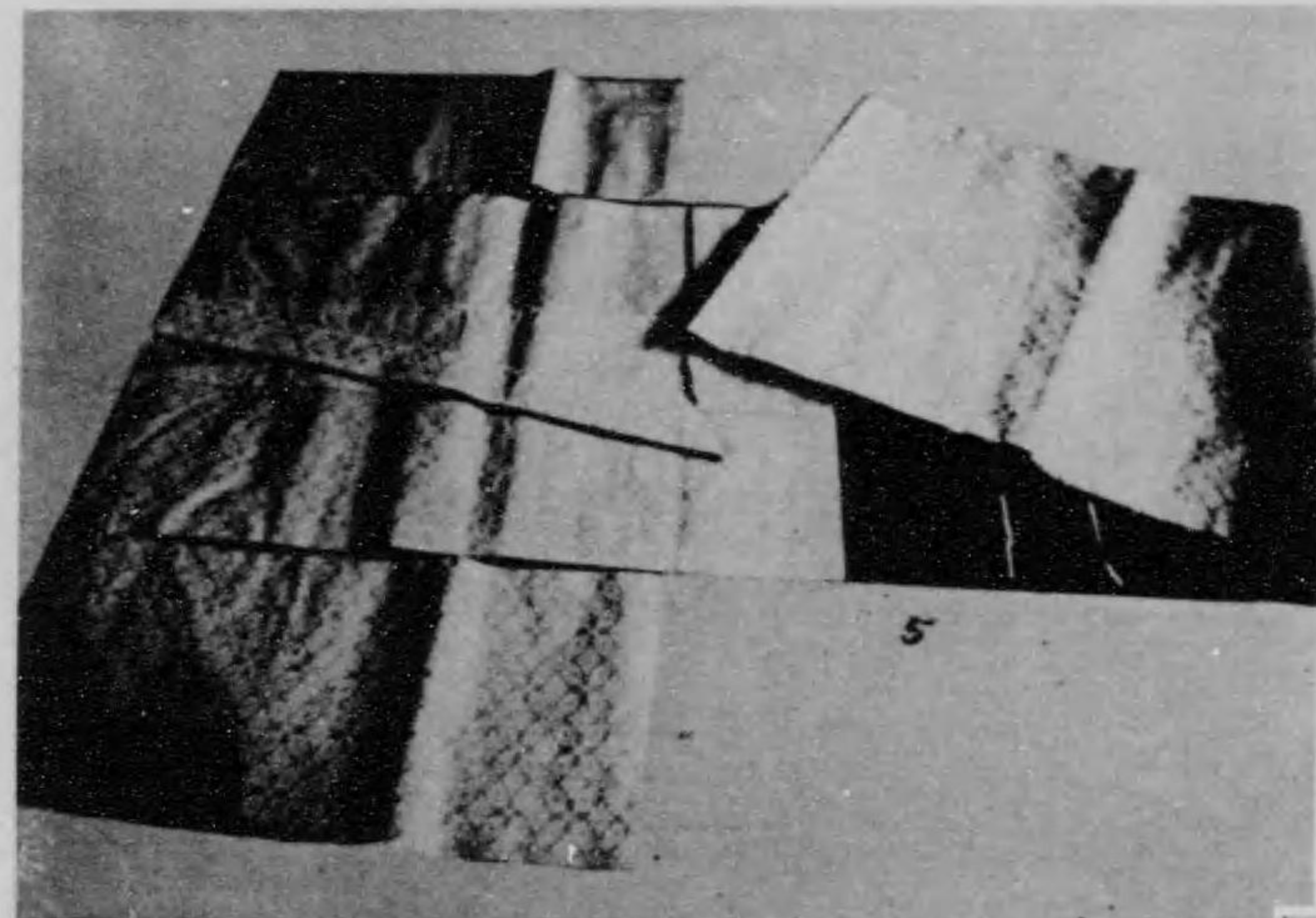


大禮使官 江 木 翼 氏





御 位 御 調 度 品



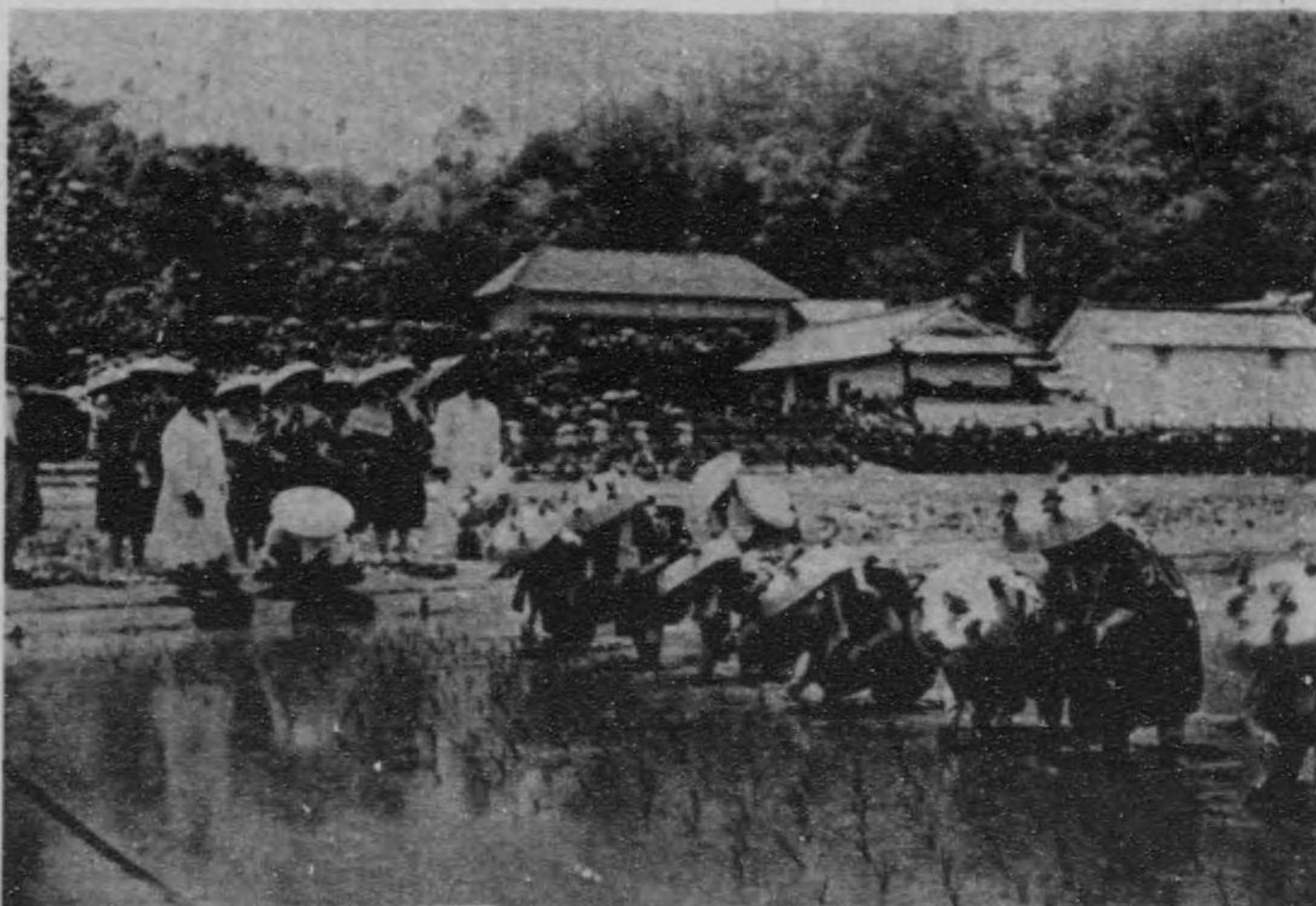
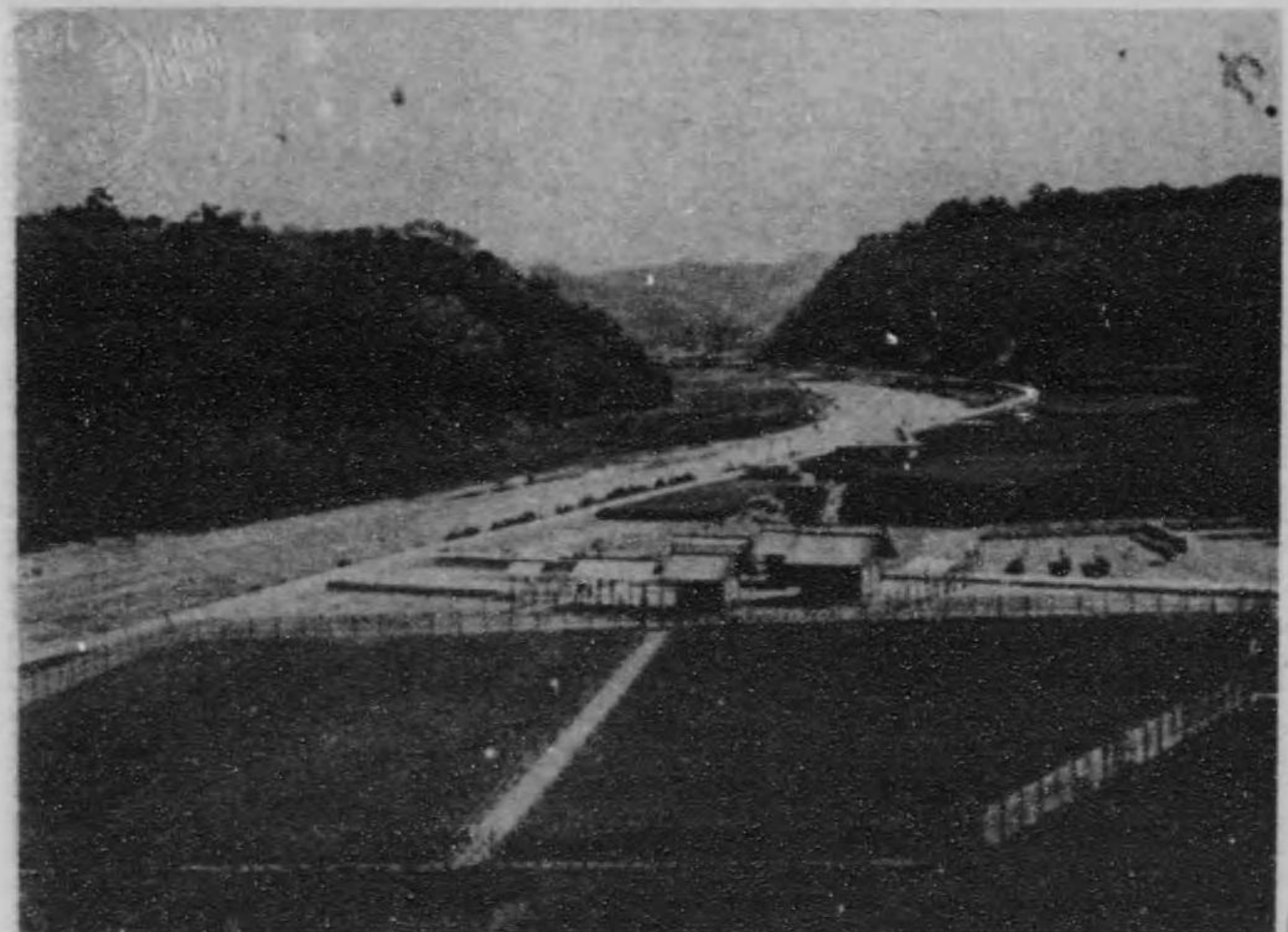
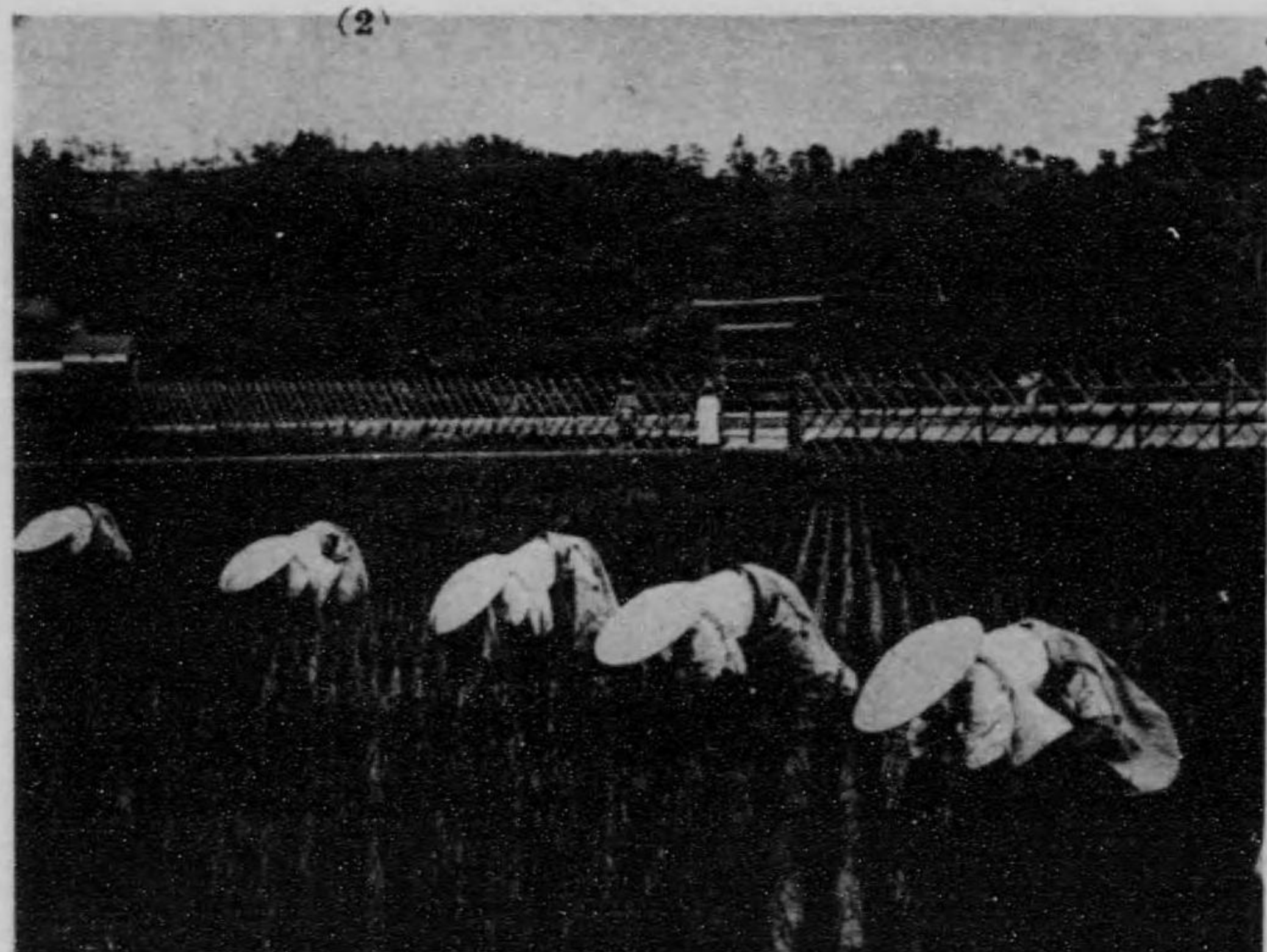
髪結子釵(2)、子釵(1)にて帯束御冠衣の下陸雨は眞鍮。ふ給け舉を儀大の極登、め會を官千老五に殿宸紫き淨香の櫛、て以を辰佳の日十月一十はに下陸上型
 *、ヅウマシ(襪(10))、口大の色緋(9)、袴表の上以位三(8)、衣唐御の下殿妃(7)、扇繪の下殿妃(6)、製下御の下陸皇天(5)、箱度調るむ納のものの上以(4)、簪(3)、緒
 組(11)





田 齋

基 主



(2)

(1)

(4)

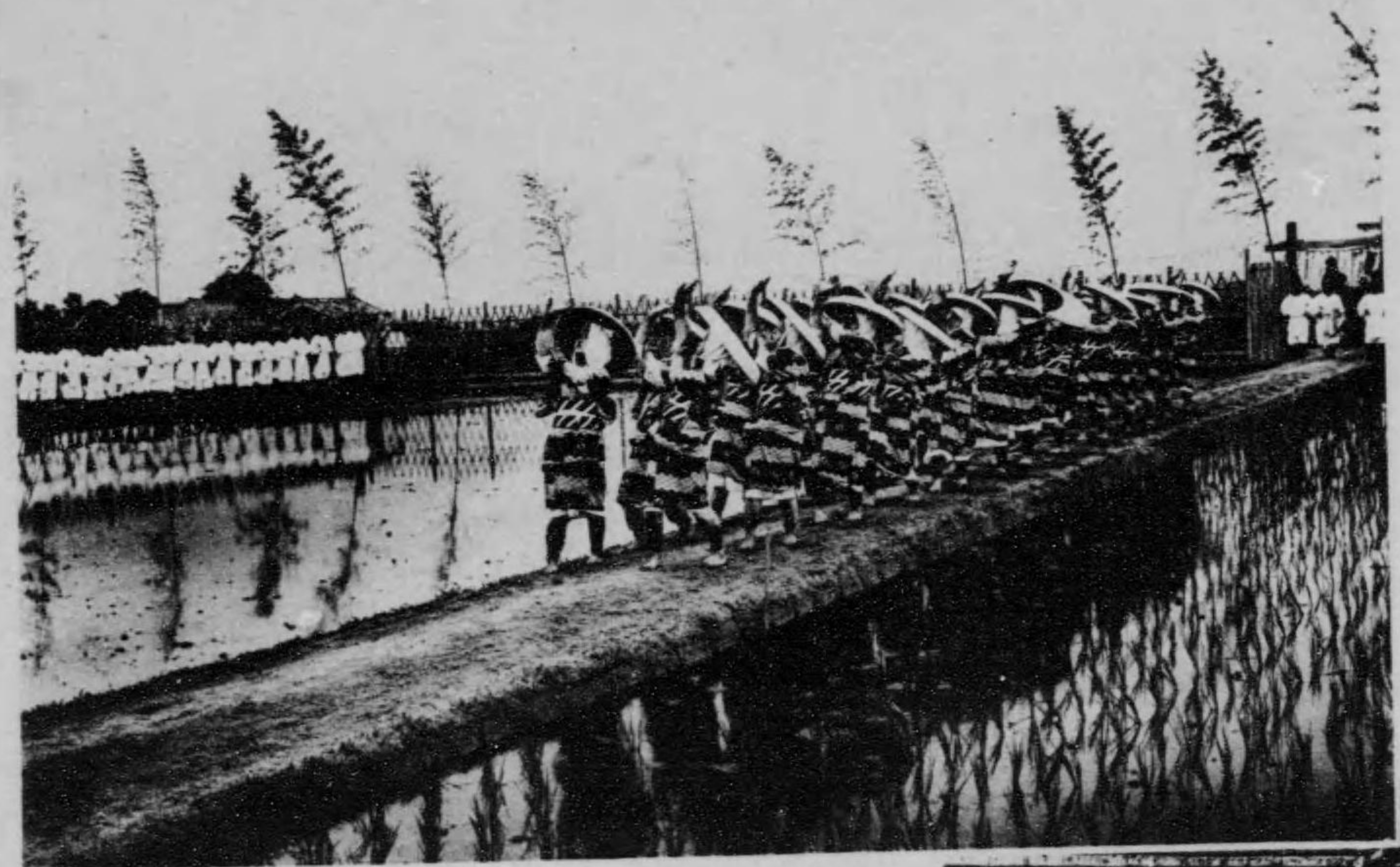
(3)

早の人八十、め始を植田御てつ畢し行奉を式植田りよ時十前午日七十二月五、れらめ定さ畝四反四地有所氏郎三辰湖岩野田字村田山郡歌綾縣川香は田齋基主
。景全田齋(4)、植田御(3)、草除(2)、女乙早(1)、し床てめしげ徳を代古る坐く白面筋の「いよてけわは田御の基主、遠来いよは田山政讀にて手取の女乙

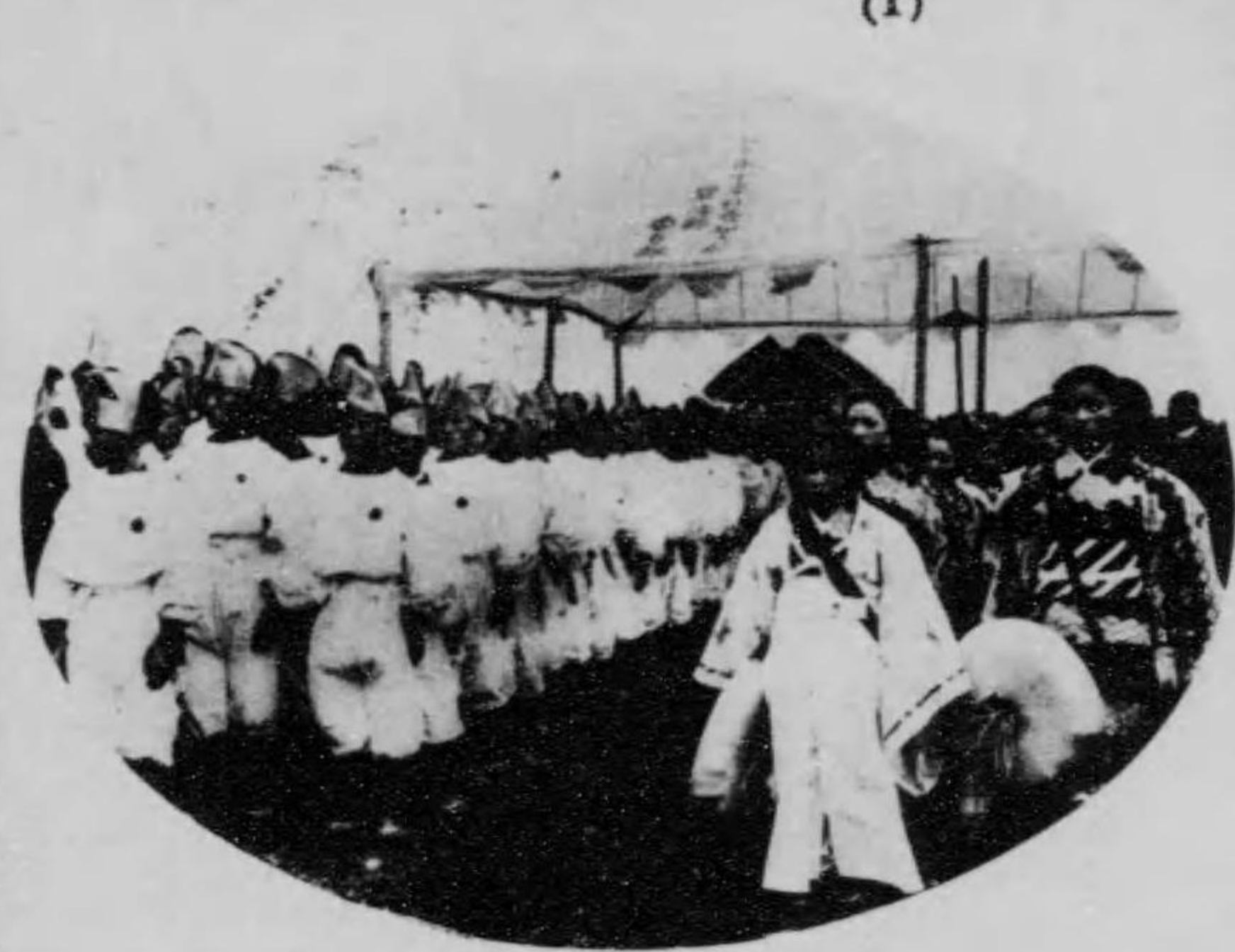


田 齋 紀 悠

(2)



(1)



(3)

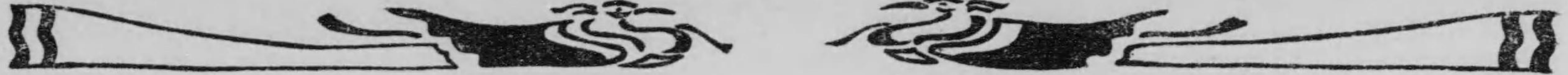


(4)



中玉歌神、ひ行な式被づ先官齋、ひ行な祭植田りよ時十前午日五月六、れらめ定さ反四地有所氏助之定川早は田齋紀悠の内の丸宇島中下字大村美六郡海碧縣知愛
 〇蒔稻(4) 〇上仕(3) 〇播植田(2) 〇女乙早(1) 〇ふ従に事の植田御人十三男、人三十二女乙早り其、りあ舞移るれ則に代古やる畢げ棒を





悠紀齋田供納米の運搬

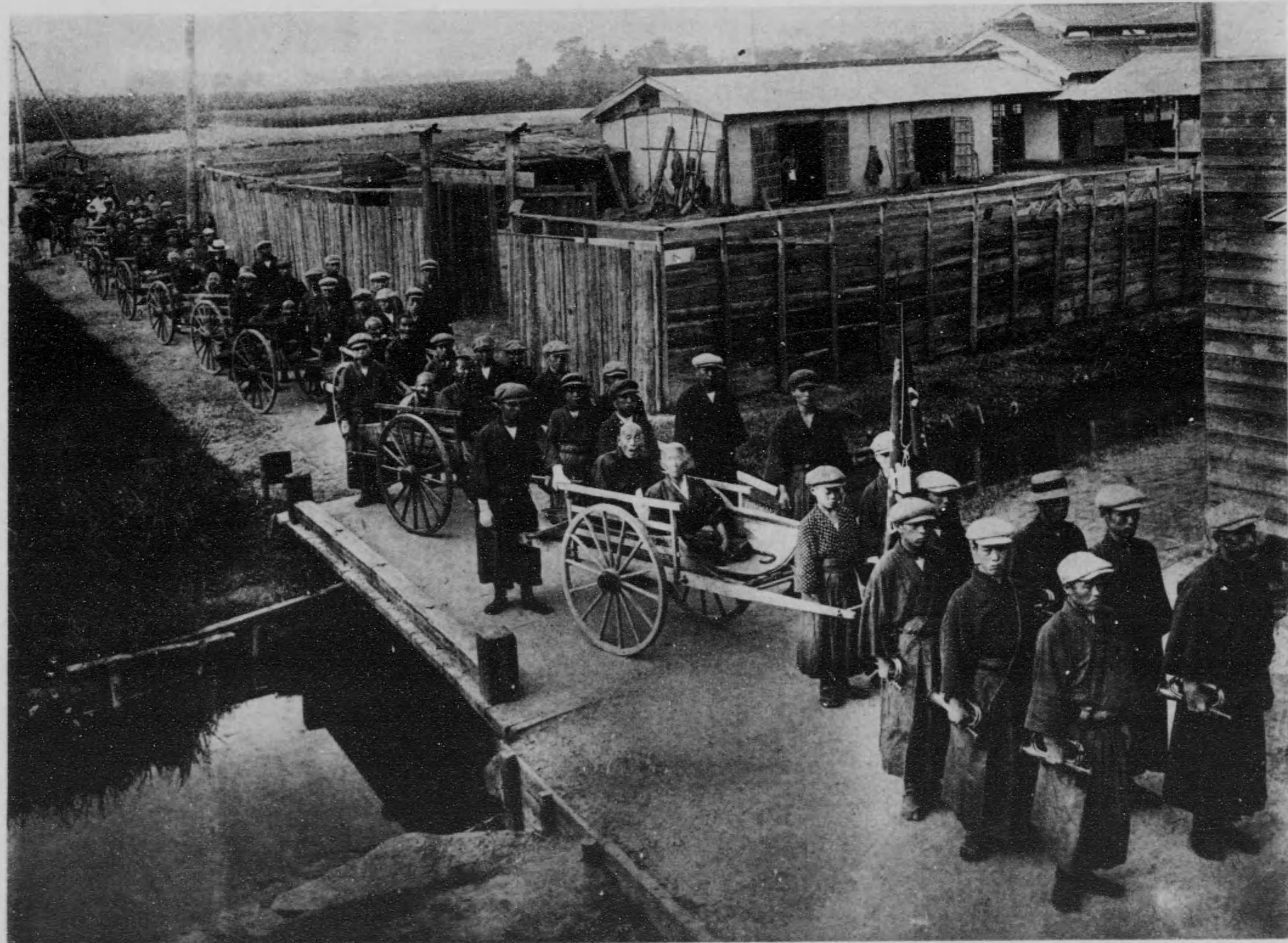


荷の搬送より朝早日六十月十、はてに村美つ六郡海碧縣知愛るな方地紀悠、り終を製精、後抜て於に田齋兩基主、紀悠は米造願の酒黒酒白の料御饗大び及祭嘗大。
りな景光の通過橋井矢美都京てしに列行搬運の米納供田齋は眞寫。りたり終み入納亭無着築都京日同てに添附事知縣井松、り納に板木白の入斗六、し手着にり造





高 齡 者 の 悠 悠 紀 齋 田 拜 觀



愛知縣悠悠紀齋田地方の青年十七歳以上の上乗車に勞を厭はず、齋田稻荷の状況に觀拜せしめ、又近き時美藝ふべし。





迎奉駕聖の都京

(1)



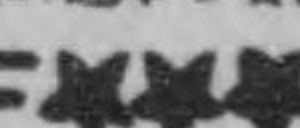
(3)



(2)

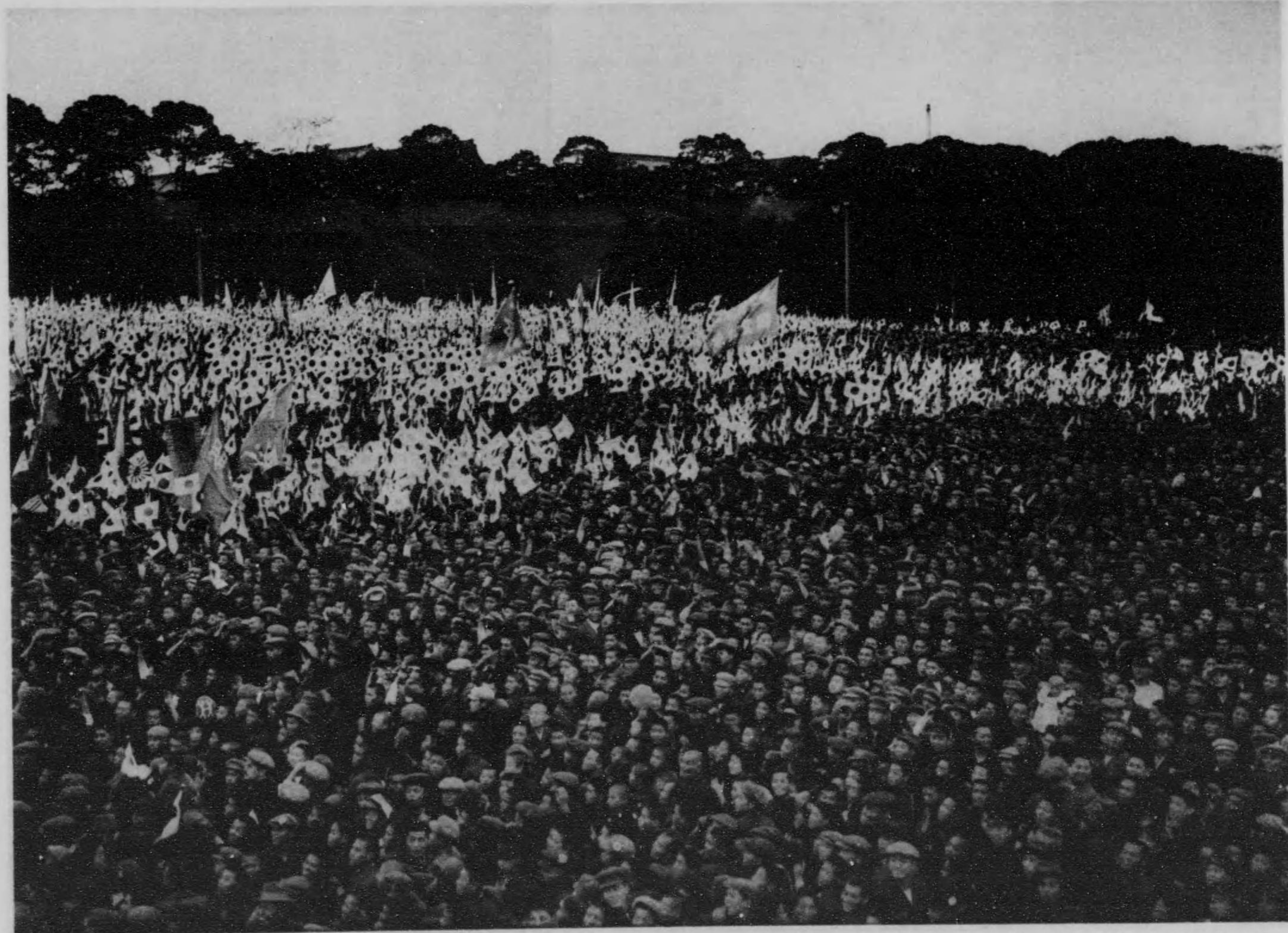


ら奉へ迎を幸御大の日今てめこみ夜、帯一道沿又、り奉ち待を御着の下陸てし駿正く如の星羅綺官大武文はに擲車停前りよ之、御着に驛都京駕聖て以を日七月一十
隊軍の近附門迎奉(3)、迎奉の官百武文(2)迎奉の者齡高 1)、りたれ溢に胸ら自喜歡、り作を垣人の重廿重十者觀拜るれ來ひ集とん

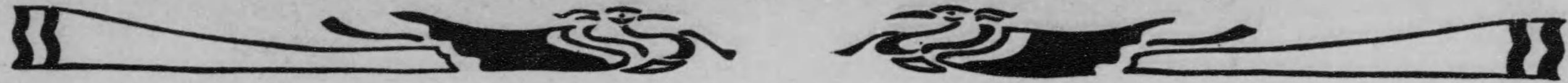




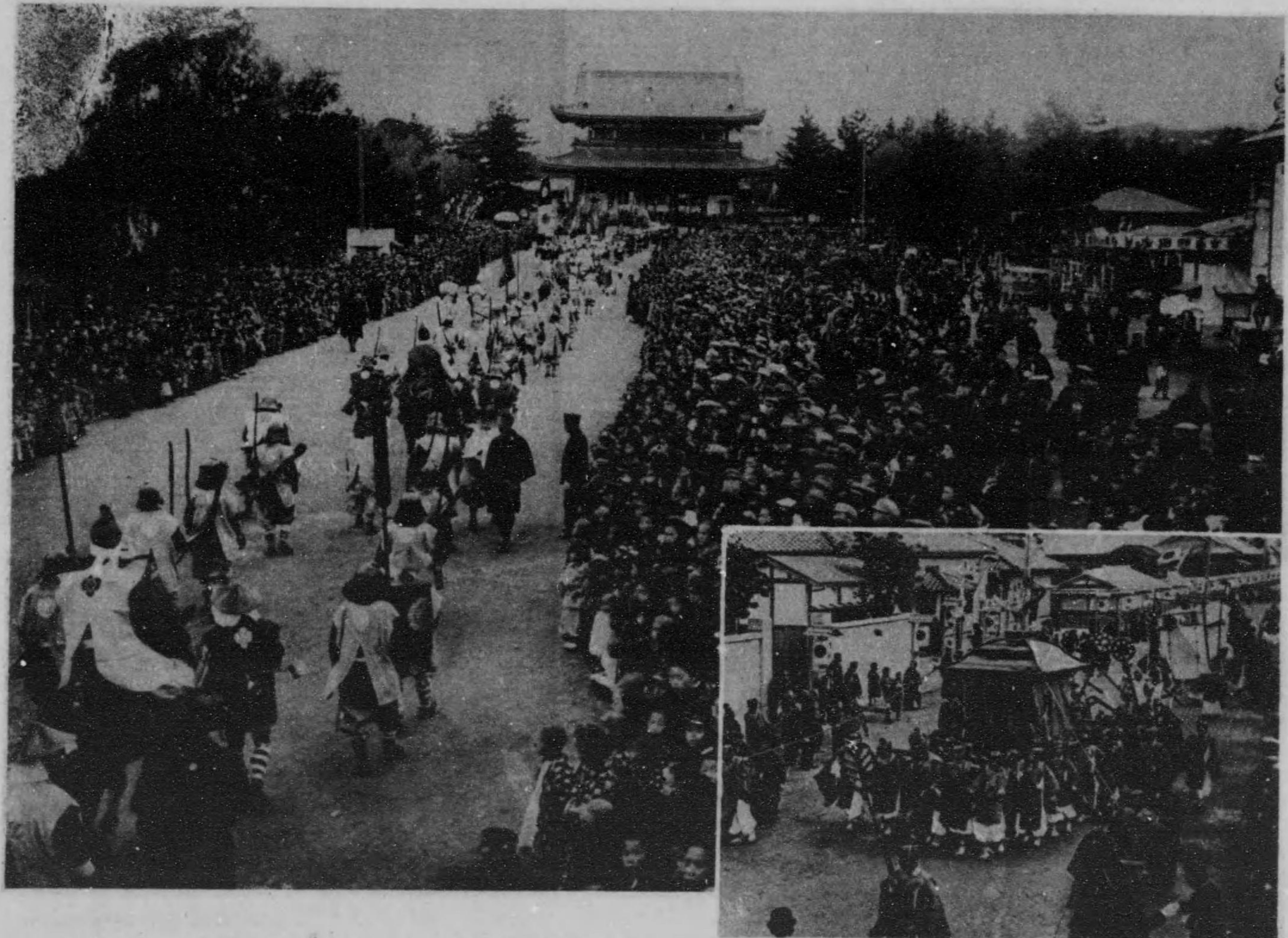
宮 城 前 の 萬 歲 奉 唱



十一月十日長上聖もく大の極登、給ひし日なり。此日午後三時半、やす指を耳す大轟音は響き渡り、奉祝の砲聲と火煙と笛汽と鐘の々々鳴り響く。鳴響之に和して東都二百万市民の喉咽も裂き一に齊に下陸の萬歲三唱し、崇絶一の那、歡呼の大内山揺たしか。り



列 行 祭 代 時 の 都 京



遷變の度制為文國我來以都遷曆延の皇天武桓は此。リナし期延に日二十月一十て以を禮大師は年本もごせなま例恒をふ行日二十月十年例は列行祭代時の宮神安平
。し白面さい趣の姿冠衣るな雅古、てに列行の儀其式儀の昔もれ何等洛上の公田繼、に頭先を隊箭弓隊國山、てしにのみふ行てつ依に列行の代時各を

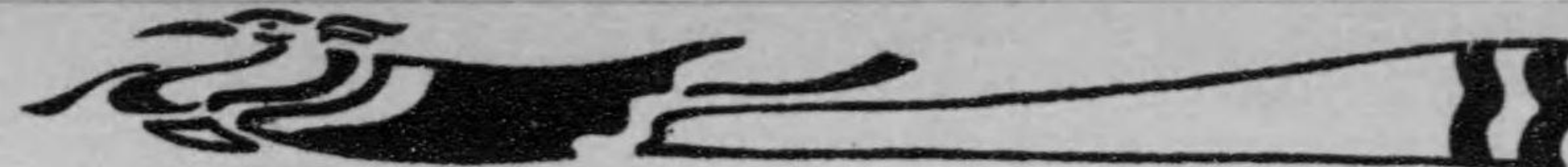


祝 奉 典 大 の 京 東



祝奉典大の古蹟はて於に京東。満に聲歡の兆儀てし舞、り振氣端に由内大げ仰。るさば遊幸行に都京日六月一十はに上聖、くべらせは行を禮大の位即
 列行士義(4) 街波典前城宮(3) 車電花(2) 列行丁仕の鼓鑼榎新(1) きりざらゐ方一者類の内市は後前日五十に殊、りあし儀の★



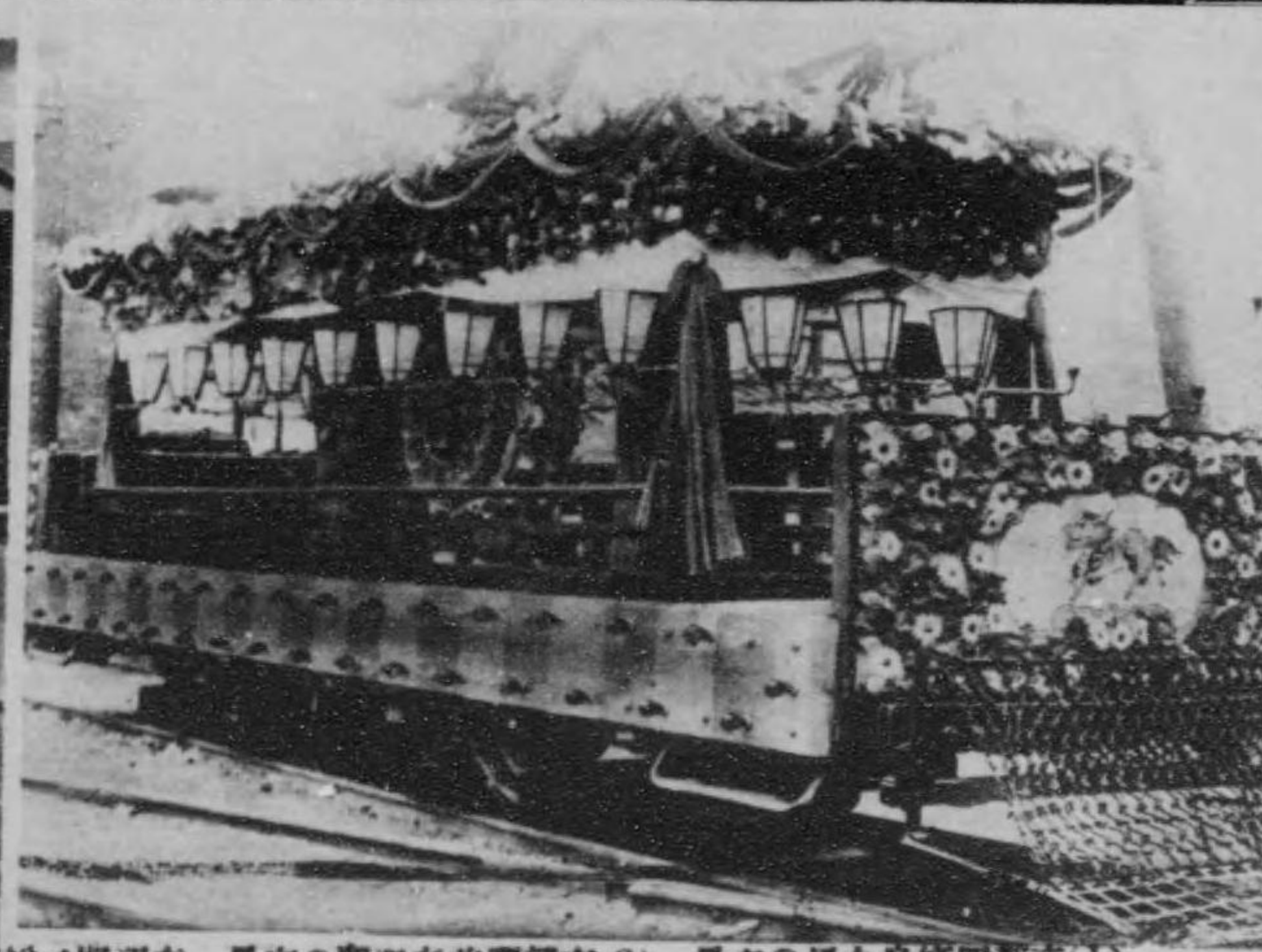
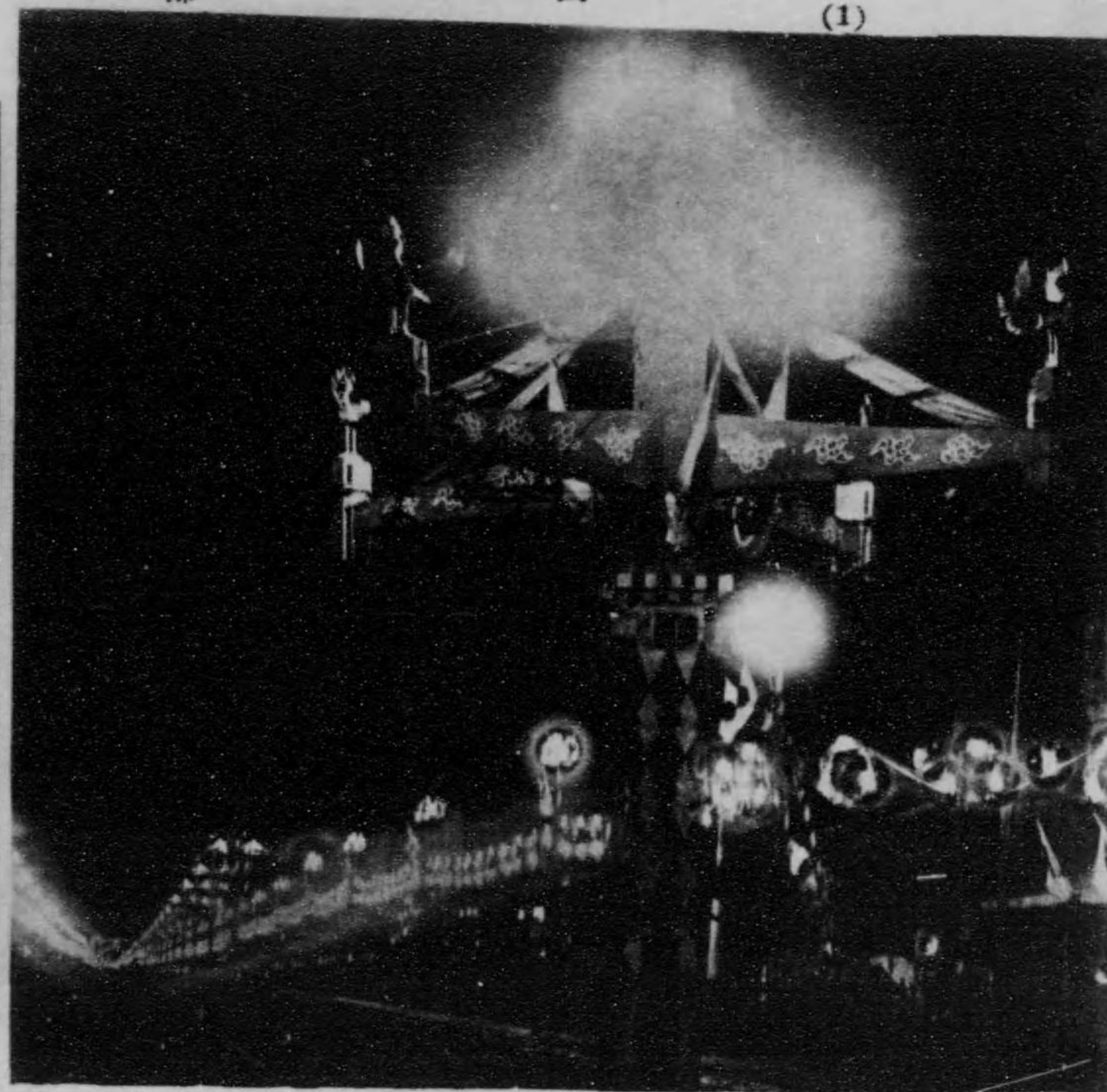
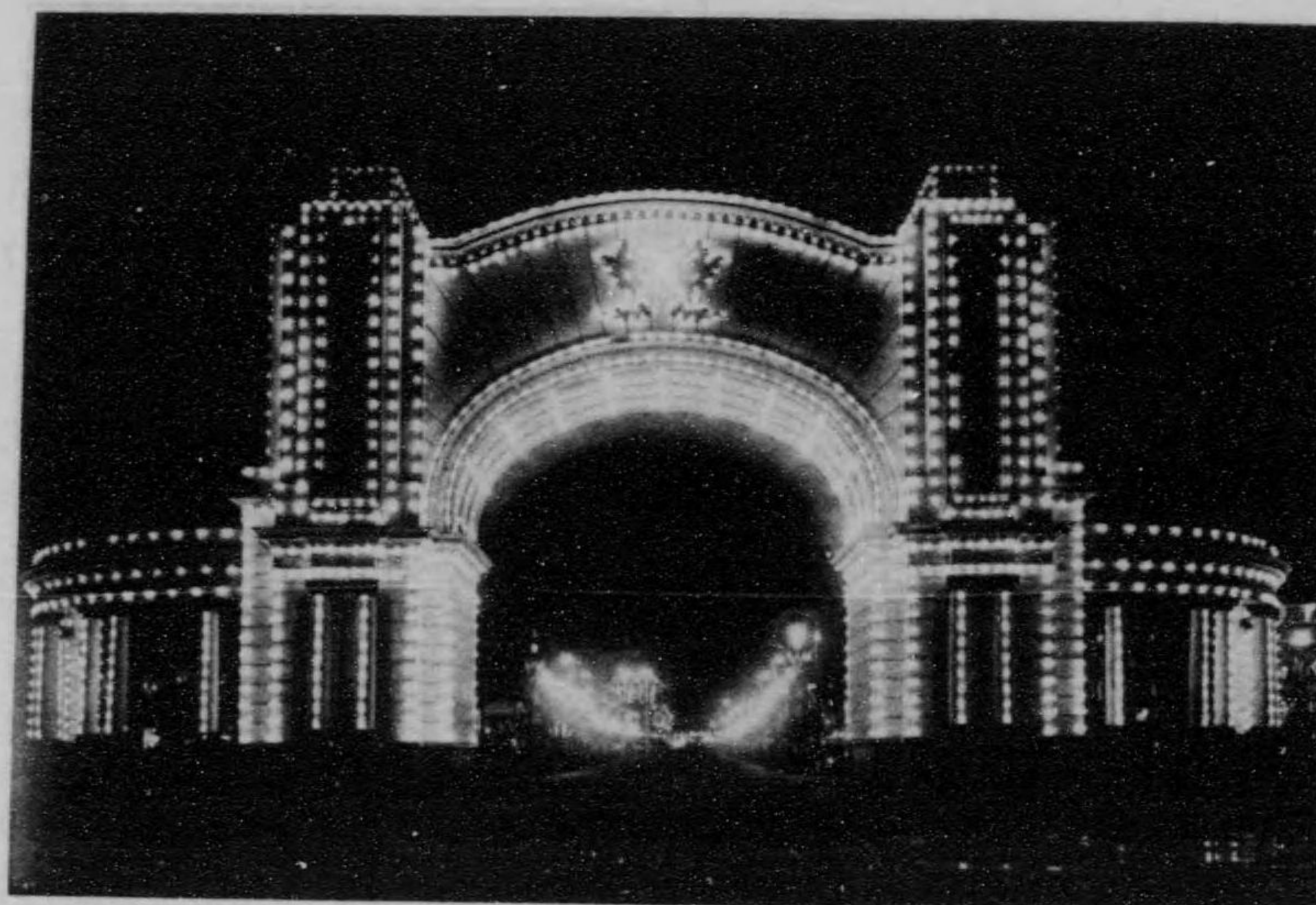


都 西 の 粧

都 西 の 粧

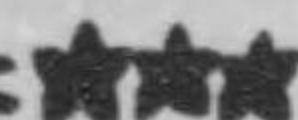
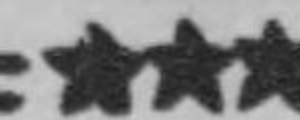
(2)

(1)



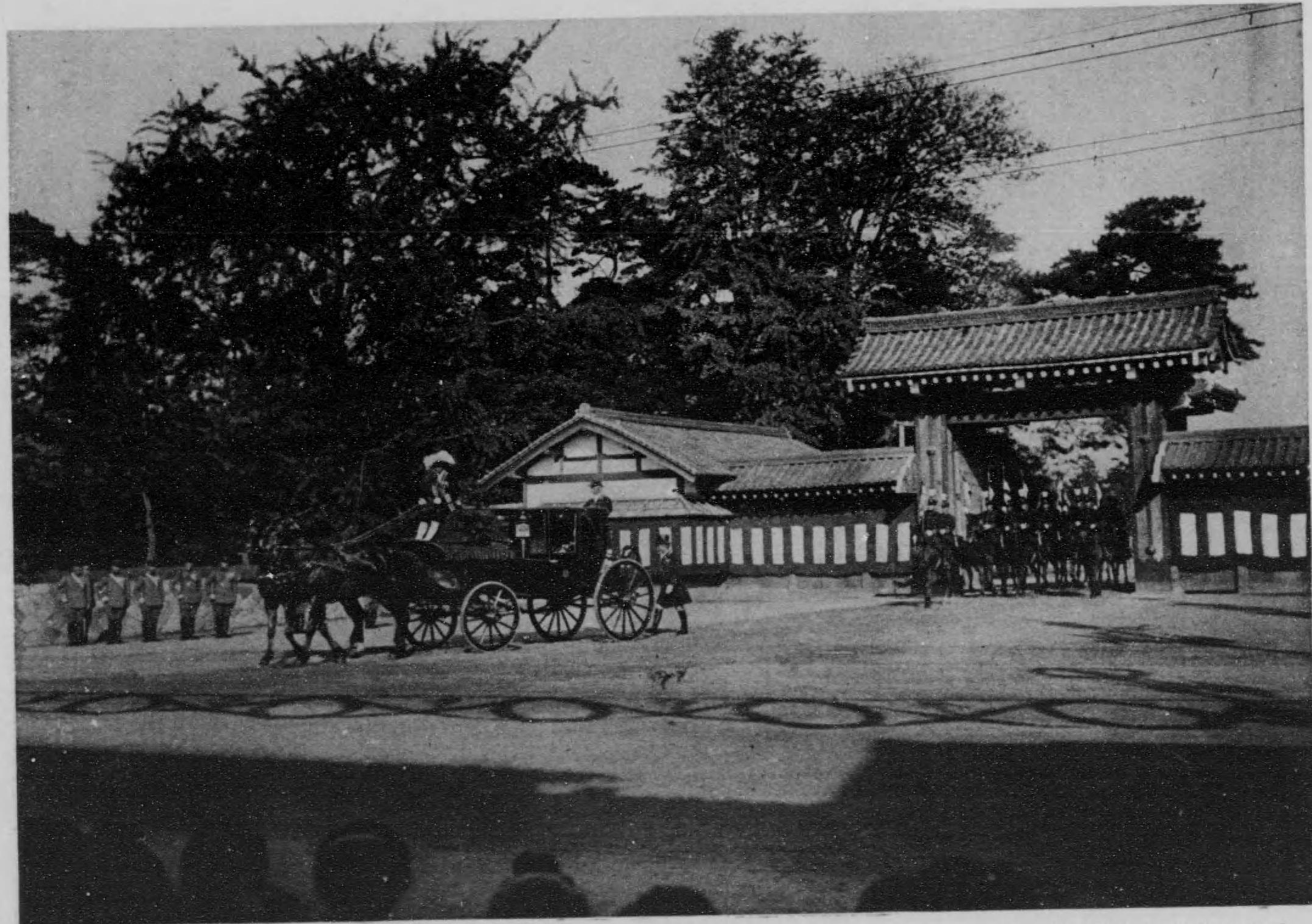
(3)

其、し模を橋の近右欄の近左に頂の柱兩右左、間三十五幅、尺十九さ高、し要を面百七万一費経総は門祝奉、景夜の門祝奉前器部京(2)。景夜の通丸鳥籠四部京(1) 會遊宴の宮神安平(3)。む極を麗壯觀美てじ點を百九千燈電の小大は間夜、げ揚を章徽の市都京るたれらせ擁に風風ほに面正央中、み形を幡袋万に面下





聖駕境町御門を出てさ給ふ



聖駕境町御門を出てさ給ふの白紅てしと々憂音の蹄の馬御。るさば遊謁親御に陸帝三明孝、孝仁、格光、幸行に山京東洛門出御時九前午日六十二月一十てしと儀御の後最禮大御はに下陸上聖。りな所ふ給せまで出み門御町境駕聖は圖。し尊にか嚴唯ばれすら参み拜か委英てい仰り翻に風朝旗槍



御即位大典記

◎御 發 輦

△賢所移御祭 十一月六日今日を長くも今上陛下が賢所を奉じて、一路遙々舊都京洛の地へ幸し給ふ目出度き日なり。此の日午前三時、齋戒沐浴せる九條掌典次長以下賢所を裝飾し了れば同三時三十分掌典長岩倉具綱氏以下三十餘名の掌典等は、それ／＼衣冠單の式服正しく賢所大前に着床すれば、北郷園池の兩掌典は樂官の奏樂裡に膝行して神前の御扉を開き參らせ、岩倉掌典長、恭しく祝詞を奏し、次て天皇陛下御差遣の日根野侍従は衣冠單の禮裝にて御代拜御告文を奏す、次て皇后陛下御代拜皇后宮主事東久世秀雄氏拜禮を了れば、九條掌典次長等は再び奏樂裡に神饌を撤して御扉を閉ぢ此處に全く移御祭の終りを告ぐ、かくて賢所は御羽車に乗御、三十餘名の八瀬童子之を昇ぎ參らせ、掌典、近衛將校之を警護し奉る。陛下に於かせられては、龍顏麗はしく御起床遊ばされ御身御潔齋の後賢所渡御の儀ある間嚴然として御座あり、總て御發輦の御時刻となり、鷹司侍従長より出御を奏請するや、陛下には大元帥の御盛裝厳しく、表御座所を廊下より御車寄前に出御あらせられ、折しも御車寄前に着御したる御羽車に對し奉り鄭重なる御會釋ありて後鳳輦に乗御、鷹司侍従長御陪乘を承はり鹵簿肅々帝宮を御發輦あらせらる。時しも午前正六時東天紅を漲らし、瑞雲大内山に雲霧して曙光遍ねく閃めき渡り、夜はほの／＼と明け初めたり。

斯くて二重橋の城門は左右に押し開かれ、騎兵警部八名、警視二名を前後にして、川崎警務部長前驅を承はり、供奉の近衛騎兵二十二騎、四名の掌典補を前にして、檀色の布衣を着けたる八瀬童子三十二名は賢所を奉安せる御羽車を奉御し、肅々として進御し、吳床兩皮之に従ひ、左右には正装せる陸軍少將小池安之以下九名騎馬にて供奉す、次いて掌典長代理九條掌典次長は掌典二名掌典補二名を従へて進み之に續いて賢所御衛の騎兵二十名戸田式部長官、江木石原大禮使次官、波多野宮相等何れも大禮服にて四臺の儀裝馬車に分乘し、近衛騎兵十三名相淵曹長の奉持せる天皇旗燦として千代田城頭に翔り、更に二十五騎の儀伏兵騎乗の根村車馬監及び近衛將校二騎之に次ぎ、金鳳を載ける大典特別儀裝の鳳輦は、六頭立の名馬にて奉曳す、仰いて御輦の内を拜すれば聖上には金色燦然たる陸軍大元帥服に勳八等より大勳位迄及び英米佛露伊其他各國の勳章を佩用遊ばされ左手に軽く御劔の鞘を握らせ給ひ龍顏いと麗しく民衆の最敬禮に一瞥を給ふさへ畏こし。鷹司侍従長は陸軍少將

の正装にて陪乘し、近衛將校前後左右を警護し侍從官三名、藤波主馬頭、神尾東
 京衛成總督等順次正装騎馬にて供奉し、聯隊旗を先頭の近衛騎兵二十七騎に續いて
 伏見總裁宮殿下、閑院宮、伏見若宮殿下には正装にて各儀裝馬車に召され、後衛の
 儀伏兵十一騎侍從二人、内山侍從武官長、大山内大臣、大隈首相、侍醫、書記官、府
 知事警視總監等の儀裝馬車六臺之に續き騎兵警部警視等後驅を承はり、鹵簿肅々と
 して萬歳門を通御同六時三十分を以て東京驛皇室專用御車寄に着御あらせらる。
 鳳簾御身寄に着するや、聖上には君が代の奉奏裡に御降車あり、久瀨、北白川、朝
 香各宮殿下を始め徳大寺、東郷兩大勳位各大臣以下御奉迎の方々に御會釋を賜ひ、
 沼田鐵道院總裁の御先導にて階上便殿に入御あり。かくて此間賢所を奉安せる御羽
 車を奉安車に安置し奉り畢りて陛下には便殿より御通路を経てプラツトホームに玉
 歩と移させ給ひ、皇后、皇太子兩皇子御使以下の奉送裡に御召列車に乗御あり、
 鷹司侍從長陪乘其他供奉員以下所定の車輛に陪乘して、正七時轎轡の響と諸共に
 一路平安西都に幸し給へり。

斯くて六日名古屋離宮に御駐泊、明くれば七日、午前九時五十分と云ふに車駕再
 び名古屋を發し午後一時五十分一路安らげく京都驛に御着輦、御先着の各宮殿下
 並に文武百官の御奉迎を受けさせられ鹵簿嚴かに京都御所に入り給へり。一方賢所
 を奉安せる御羽車は諸事滞りなく春興殿に渡御あらせらる、時に午後五時なりき。

◎賢所御前の儀

十一月十日早晨大禮使は春興殿に進み出て御本殿の御簾御幌並に御壁代を更め内
 陣の中央に聖上の御座(短帖)を設け、御側に寶劍、神璽奉安の御案を置き奉り、御
 裝飾全く終るや、皇宮の南門たる建禮門、東門たる建春門は押開かれ皇宮警部之
 を警固し奉る。既にして樞密院副議長正二位勳一等伯爵芳川顯正氏以下の諸員は午
 前七時三十分迄に第二朝集所へ、大勳位公爵山形有朋氏以下從一位以上の諸員は午
 前八時迄に第一朝集所へ參集し男子は白袴の大禮服、正装又は通常禮服にて、女子
 は大禮服或は、袴の禮服を着用す。更に皇太子殿下を始め奉り大禮使總裁伏見宮
 貞愛王殿下及び各宮殿下には同じく宜陽殿に入らせらる。應て天皇陛下には常御殿
 を出御、各殿下の奉迎裡に宜陽殿に渡御遊ばされければ、東園侍從は御東帶白地の
 帛御袍の御正服並に御牙笏を奉り、東宮殿下には御頭は空頂黒纒として御添髪中央
 より分けさせられ鴛鴦の窠の紋つきたる綾黄の御袍を着給ひ梨地螺鈿の細太刀を佩
 かる。尋て各殿下妃殿下を始め奉り波多野宮相外各殿上の諸官等、男子は東帶帯劍、
 女性は五衣、唐衣を着用す。此時松川第十六師團長並に船越様名艦長の率ゆる陸



海軍儀仗兵は建禮、建春兩門外に堵列し、大禮使高等官木村英俊以下五氏は衛門
 の本位に就き、同芝蔴鎮、林廣繼は判任官六人宛を率いて司鉦司鼓の本位に就く、
 次で大禮使高等官市來政方以下八氏は威儀物の太刀を奉持して左右四人宛に分れ、
 飛鳥井恒廣伯以下八氏は弓を小野義一氏以下八氏は胡篋を御牧基賢氏以下八氏は鉞
 を奉持して大庭の所定の地位に控へ、威儀本位には正親町實正伯以下十氏は前列に、
 寺内宋氏以下十氏は後列に着席す、斯くて威儀全く整ふや、司鉦司鼓の本位に就け



は大禮服或は袴袴の禮服を着用す。更に皇太子殿下を始め奉り大禮使總裁伏見宮
 貞愛王殿下及び各宮殿下には同じく宜陽殿に入らせらる。聽て天皇陛下には常御殿
 を出御、各殿下の奉迎裡に宜陽殿に渡御遊ばされければ、東園侍從は御東帶白地の
 帛御袍の御正服並に御牙笏を奉り、東宮殿下には御頭は空頂黒幘とて御添髪中央
 より分けさせられ鴛鴦の窠の紋つきたる綾黃の御袍を着給ひ梨地螺鈿の細太刀を佩
 かる。尋て各殿下妃殿下を始め奉り波多野宮相外各殿上の諸官等、男子は東帶帶劍、
 女性は五衣、唐衣を着用す。此時松川第十六師團長並に船越榛名艦長の率ゆる陸



海軍儀仗兵は建禮、建春兩門外に堵列し、大禮使高等官木村英俊以下五氏は衛門
 の本位に就き、同芝蔭鎮、林廣繼は判任官六人宛を率いて司鉦司鼓の本位に就く、
 次で大禮使高等官市來政方以下八氏は威儀物の太刀を奉持して左右四人宛に分れ、
 飛鳥井恒廣伯以下八氏は弓を小野義一氏以下八氏は胡篳を御牧基賢氏以下八氏は鉦
 を奉持して大庭の所定の地位に控へ、威儀本位には正親町實正伯以下十氏は前列に、
 寺内宋氏以下十氏は後列に着席す、斯くて威儀全く整ふや、司鉦司鼓の本位に就け
 る、芝、林の兩氏は鉦鼓を撃つ事三度にして、朝集所に參集せる諸員及各國特派使
 節は順次奉輿殿前の帷舎に列立す。聽て御本殿の御扉は開かれ、畢つて掌典長岩
 倉具綱氏は恭しく大神の大前に進み出て、祝詞を奏す、之より先皇皇后陛下には御
 懐胎の故を以て臨時出御なき旨仰せ出されたり。斯くて閑院宮妃智恵子殿下を始め
 奉り七妃殿下には聖上の出御に先つて南榮に御侍立あり、陛下には式部長官伯
 備戸田氏共、官相羽多野敬直兩氏の御前行にて供奉員を隨へさせられ、内陣なる短
 帳の御座に着御あらせらる、此時侍從は御側の御案の上へ御劍と御壺とを置き奉
 り皇太子殿下を始め各皇族殿下には南榮に所侍立に相成、大隈總理大臣以下は其後
 に侍立す、此時内典典朝山儀子は神前の御鈴高らかに鳴らせば、陛下には徐ろに神
 前に進ませ給ひ、恭しく天祖の大御靈に御拜禮ありて玉音最も朗らかに御告文を
 奏させ給ひ、天祖の大御靈に即位の大禮を告げさせらる、神々しとも神々し。畢つ
 て皇后陛下御名代朝香宮允子内親王殿下の御代拜あり、次で皇太子殿下を首め各殿
 下各妃殿下にも同じく御禮拜相成つて後、陛下には出御の時の供奉にて入御遊ばさ
 る、次に御幣物神饌を撤して御扉は閉され、鉦鼓の御合圖にて諸員に朝集所に退下
 す、時に午前十一時二十分。

◎紫宸殿の御儀

十日午後一時、高島少將の指揮する近衛儀仗兵は建春、建禮兩門外に整列す。
 衛門の本位として、承明門外には下條康麿氏以下六名、日華門外には杉孫磨氏以
 下七名、月華門外には横山誠一郎氏以下六名、長樂門外には八並武治氏以下四名
 永安門には堀義貴氏以下四名、渡邊信、北垣確兩氏は左掖門に、梶野行和、金子有
 道の兩名は右掖門の各外掖壇下に參着す、司鉦司鼓の本位としては、芝蔭鎮、林廣
 繼兩氏以下十二人各左右に着席し次で大禮使高等官豊島直道氏以下八名は太刀を、
 同持明院基賢氏以下八名は弓を、大澤三之助氏以下七名は胡篳を、古谷重綱氏以下
 八名は櫛を奉持して中錦幡面の本位に就き、威儀の本位として股野琢氏以下十氏は
 前列に、久保田鼎氏以下十氏は後列に就きたり。間もなく鉦鼓の相圖ありて、第二

朝集所の諸員は軒廊に参進し、第一朝集所の外國使節其他は殿上の西廂に参進し、戸田式部長官、式部官、鷹司大禮使長官、大隈内閣總理大臣、羽多野宮相共に紫宸殿の南廂の西方に着席、東宮殿下には各宮殿下を随へさせられ、高御座の東手の御椅子に着御、尙皇后陛下には臨御ましまさねば、御帳臺の御帳を垂れたるまゝにて其の御前に閑院宮智恵子殿下を始め奉り各宮妃殿下列し給ふ。既にして殿上庭上の諸儀悉く整ひければ原、大炊御門の兩侍従の合圖により紫宸殿の東南隅に在りし慈光寺式部官警蹕を稱へ、蜂須賀式部官は之を受けて更に高く警蹕を傳ふ、次て諸員皆最敬禮をなし天皇陛下には落合、石山兩侍従の御先導にて清涼殿より出御、高御座の北階より昇御、日野根、清水谷兩侍従は劔璽を捧げて東西の兩階より昇り御座の左右の案上に之を奉安し、大山内大臣は高御座御帳外の東北隅に祇候し、侍従長代徳川次長以下侍従内山侍従武官長以下侍従武官は高御座の後壇下に侍立す、裏帳の鉦一聲響き渡れば海江田、松平兩侍従は高御座の東西兩階より段上に昇つて御帳を入文字に擧げ奉れば、天皇陛下には立纓、御東帶黃楨染の御袍神々しく御笏を端し給ひ立御ましましたり、此時大隈總理大臣は紫宸殿の西階を下り庭上を廻りて南階の下に進み北面して立つや、諸員最敬禮の裡に玉音朗らかに勅語を宣らせ給ふ。總理大臣七千萬人の臣民を代表して、南榮帽額の日像の下に於て、頓首して聲高らかに壽詞を奏す、畢つて再び南階を下り左右萬歳旗の間に至り一聲高く萬歳を三唱し、諸員之に和す。時に午後三時三十分、七千萬の臣民各地に於て異口同音に萬歳を三唱す畢りて總理大臣は殿上の本位に復し、侍従の稱ふる警蹕に、諸員最敬禮、天皇陛下には龍顏いと麗はしく北階を経て清涼殿に入御し給ふ。次て鉦鼓三撃の合圖ありて諸員順次退下す。時に午後四時三十分なり。

◎大嘗祭

十一日は賢所にて午後三時より御神樂の儀あり、十三日には午後五時より鎮魂の御式あり、十四日夜より大嘗祭なり、十四日午前八時より賢所に大御饌供進の儀あり、午後四時二十五分天皇陛下には波多野宮相、内山侍従武官長、鷹司侍従長、近藤官相秘書官の供奉にて御所より出御、之より前大嘗宮衛門の本位には杉塚磨以下二十人第一班として整列し、午後七時五十分第二班と交替す。威儀の本位には南部光臣以下左右六人宛参列し、之も後に第二班と交替す。四時三十分には悠紀殿の内岩倉掌典長以下神座を奉仕し、五時齋火の燈燎を點じ、神庭に燎火を燒く。既にして朝集所に控へたる文武諸員は進みて幄舎に入り、六時五十分天皇陛下は頓宮より廻立殿に出でまして御湯を召し、齋服を着給ふ。七時四十分陛下廻立殿より

悠紀殿に進御、侍従松平慶氏黒田長敬脂燭を執り、戸田式部長官、波多野宮内大臣前行し、侍従清水谷實秀は御劍を、高辻侍従は御璽を捧げ、東園侍従後より金色燦爛たる御管蓋を駢し覆ひ奉り、徳川、松平兩侍従管蓋の御綱を取る、鷹司侍従以下各侍従、内山侍武官長以下各侍従武官御後に候し、東宮及び各皇族殿下を始め大隈首相以下各國務大臣、山縣樞密院議長、大山内大臣等供奉す。陛下には悠紀殿の外陣の御座に着御、皇后陛下御代拜朝香宮妃允子内親王殿下帳殿に着御、次に國栖の古風悠紀地方風俗歌を奏し、畢つて皇后陛下の御代拜各宮妃殿下の御拜禮あり。



内にて岩倉掌典長以下神座を奉仕し、五時齋火の燈燎を點じ、神庭に燎火を燒く。既にして朝集所に控へたる文武諸員は進みて帷舎に入り、六時五十分天皇陛下は頓宮より廻立殿に出てまして御湯を召し、齋服を着給ふ。七時四十分陛下廻立殿より

悠紀殿に進御、侍從松平慶氏黒田長敬脂燭を執り、戸田式部長官、波多野宮内大臣前行し、侍從清水水谷實秀は御劍を、高辻侍從は御璽を捧げ、東園侍從後より金色燦爛たる御管蓋を懸し覆ひ奉り、徳川、松平兩侍從管蓋の御綱を取る、鷹司侍從以下各侍從、内山侍武官長以下各侍從武官御後に候し、東宮及び各皇族殿下を始め大隈首相以下各國務大臣、山縣樞密院議長、大山内大臣等供奉す。陛下には悠紀殿の外陣の御座に着御、皇后陛下御代拜朝香宮妃允子内親王殿下帳殿に着御、次に國栖の古風悠紀地方風俗歌を奏し、畢つて皇后陛下の御代拜各宮妃殿下の御拜禮あり。八時五分神饌を膳屋より悠紀殿に捧げて進む。八時十分より悠紀殿内陣に於て天皇陛下親しく神饌を捧げたまひ、御告文を奏せらる、次に神に捧げしと同じものを親らも聞しめす、之を御直會と云ふ、斯くて十一時二分全く御祭式を畢りて、神饌を撤し、十一時八分廻立殿へ還御、次で諸員も亦朝集所に退下す。引續き十五日午前一時三十分よりの主基殿供饌の御儀は悠紀殿の御次第と變らせられず行はせらる。

◎ 大饗第一日

十六日正午には、二條離宮内新設の大饗宴場に於て、各皇族殿下外國の使節其他八百餘名を召されて大饗第一の儀を開き給ふ。玉座は場の北側に設けられ、其の背面には、錦軟障と稱する幕を張廻し、今尾景年畫伯か謹寫せし千年松山水の模様あり、場の東北隅と西南隅には悠紀地方風俗歌、主基地方風俗歌の屏を立てられたり。正午天皇陛下には皇族其他の供奉員を隨えさせられて出御、諸員北面して本位に就けば、優渥なる勅語を賜ふ、此時大隈總理大臣は我臣僚を代表し、露國大使は外國の使節を代表して奉答文を捧ぐ。應て白酒黒酒挿華を賜ひ、一方久米舞五節舞を奏す。十七日午後六時より同饗宴場に於て大饗第二日の儀ありて、外國代表者を主賓として三百餘名を召されて宴を給ふ。音楽は歐洲の管絃樂を奏す。七時十五分其儀畢る、夜に入り八時十五分より夜宴の儀あり、前記の外二千餘名を召されて宴を賜ひ、太平樂、萬歳樂を奏す、十八日午前零時三十分宴畢りて聖上には御機嫌麗はしく還御遊ばさる。

◎ 神宮親謁

畏くも天皇陛下には神宮御親謁の爲十九日伊勢山田へ行幸あり、翌二十日には先づ外宮なる豊受大神宮に御親謁の爲め午前九時宇治の行在所を御發轍遊ばさる、此日聖上には親しく神宮大前に類づかせられ朝本反始の大道を我國民に目前示し給ふ。畏くとも尊し。又此日午前六時より神宮に大御饌供進と奉幣の御儀とあり、聖上には翌廿一日内宮御親謁の爲め午前九時十分行在所御出門遊ばされ、板桓南御門

御下乗后田式部長官、波多野宮相共に衣冠單にて御前行、御前に侍従は劔璽を御後に侍従は御管蓋を捧持し原侍従長(代理)内山侍従武官長以下御後に隨ふ、陛下には内玉桓御門迄進御御手水を執らせられ、總て正殿の御階を上らせられ大座の御座に着御、恭しく禮拜あつて天津日嗣を受け給へる由を告げさせ給ひ、御幣物の奉獻ありて御神事終了の後還御遊ばさる。尋て午後一時三十分皇后陛下御代拜北白川宮妃房子内親王殿下には内宮に御参進御禮拜あらせらる。

◎神武帝陵親謁

天皇陛下には二十四日大和國高市郡なる畝傍山東北陵御親謁の爲同日午前九時二十分京都驛御發車同十一時三十分山陵に御着遊ばさる。御陵中門の内側には衣冠束帶の祭主岩倉掌典長以下の諸員着床す。斯くて町尻、勸修寺兩掌典は順次神饌を供し齊木掌典は幣帛を奉持し、岩倉掌典長は祝詞を奏す。總て聖上には供奉員を隨へさせられ着御中門内に至らせ給ひ、同所には祭主玉串を捧げ奉る、先行の人退き後聖上には掌典長の御先導にて神明門御濱床に進ませ給ひ、御陵黒木の鳥居奥深く玉串を捧げて御拜あり、御拜終りて再び掌典長の御先導にて神明門を出てさせらる、鹵簿肅々午後零時三十分順宮を御發遊ばさる。

◎泉山御陵親謁

天皇陛下には孝明仁孝光格三天皇山陵御親謁あらせらるべく二十五日午前九時二十分建禮門より出御、鷹司侍従長御陪乘を承はり、鹵簿肅々として順路泉涌寺に向はせられ同十時頃着御、勅使門より玉座の間に入らせられ暫時御少憩の後山口諸陵頭戸田式部長官の御先行にて御陵道を先づ孝明天皇陵に向はせられたり。之より前岩倉掌典長以下各諸員小原、天岡等の係官最敬禮の裡に神饌幣物を供進し、岩倉掌典長恭しく御陵前に進み祝詞を奏するや、聖上陛下には御陵前に進御、玉串を捧げ即位式の滞りなく終らせられたる旨を告げられ、夫より順次仁孝光格兩御陵に同様御親謁行はせられ、再び玉座の間に入御、御少憩の後十時半鹵簿元の如く順路京都皇宮に還御あらせらる、翌二十六日午後零時三十分皇后陛下御名代竹田宮妃昌子内親王殿下には山口諸陵頭伊藤式部次官の御先導にて泉山三御陵に御参拜相成りたり。

◎御還幸

十一月二十七日早旦御所春興殿にて賢所移御の儀を執行はせられ、賢所を御羽車に移御し参らせ岩倉掌典長祝詞を奏するや、天皇陛下御代拜澤侍従、皇后陛下御代拜吉見掌侍の御拜禮あり、斯くて聖上には賢所を奉じて同日午前十時四十分京都驛を御發車相成りたり。途中名古屋離宮に御一泊、二十八日午後四時三十分東京驛に着御、同日賢所を温明殿に還御有り、翌二十九日は賢所大前にて神樂を奏し御親拜あり、同三十日皇靈殿神殿に御親謁、是にて一切の御儀式を終らせらる。





御代拜吉見掌侍の御拜禮あり、斯くて聖上には賢所を奉じて同日午前十時四十分東京
都驛を御發車相成りたり。途中名古屋離宮に御一泊、二十八日午後四時三十分東京
驛に着御、同日賢所を温明殿に還御有り、翌二十九日は賢所大前にて神樂を奏し
御親拜あり、同三十日皇靈殿神殿に御親謁、是にて一切の御儀式を終らせらる。

大正四年十二月十八日印刷
大正四年十二月二十日發行

定價金壹圓貳拾錢

著作兼 發行者
北川由之助

東京府豊多摩郡大久保百人町廿八番地

印刷者
早川右三郎

東京市神田區柳町壹番地

版權
所有

印刷所
毎日通信社印刷部

東京市神田區柳町壹番地

發行所
會社資
毎日通信社出版部

東京市麴町區有樂町一丁目參番地(日比谷公園角)

電話新橋二四八五番
二七三九番
振替口座東京九八一五番

終